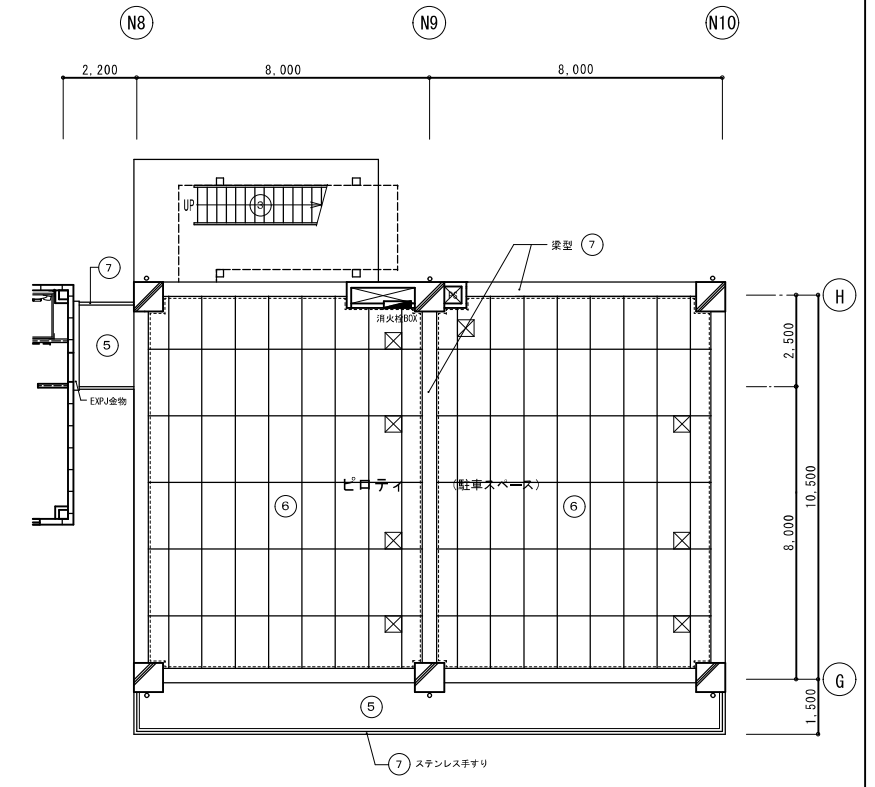


2階平面詳細図 S=1/50

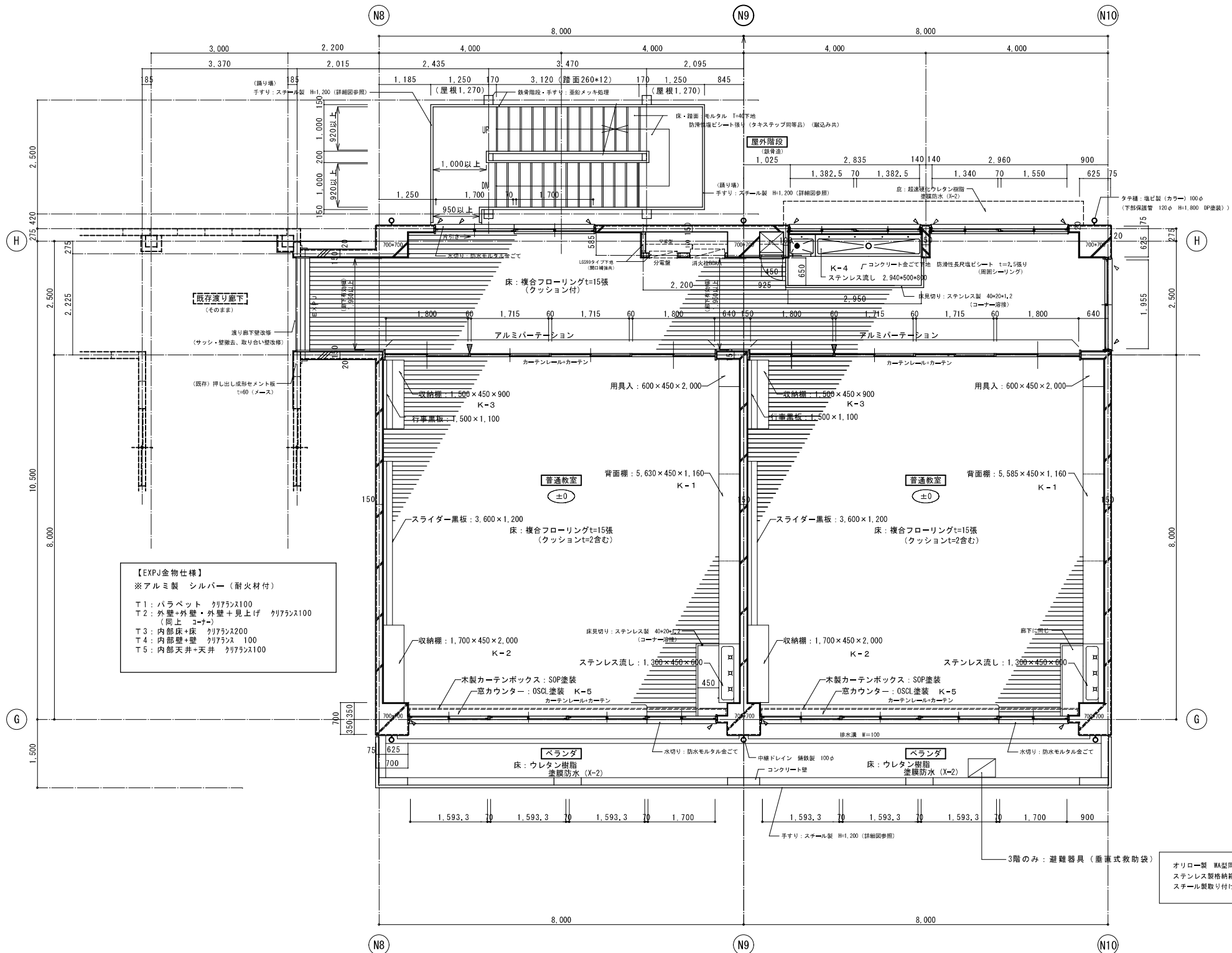
天井仕上リスト	
①	LGS下地 化粧石膏ボード 455×910
②	モルタル金ごて下地 EP-G塗装
③	鉄骨部 (柱・梁・床・手すり) 亜鉛メッキ処理
④	木製カーテンボックス SOP塗装 (ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞｰﾙｰﾙ・ｶｰﾃﾝ共)
⑤	コンクリート打ち放し下地 アクリルリシン吹き付け
⑥	LGS下地 珪酸カルシウム板 1,820×910 T=6 EP-G塗装
⑦	コンクリート打ち放し下地 珪酸カルシウム吹き付け
☒	天井点検口 アルミ製 (白色) 450×450
-----	天井廻り縁 塩ビ製 (突き付け)

※天井点検口は合計30ヶ所とする。  
(打ち合わせに上決定する。)



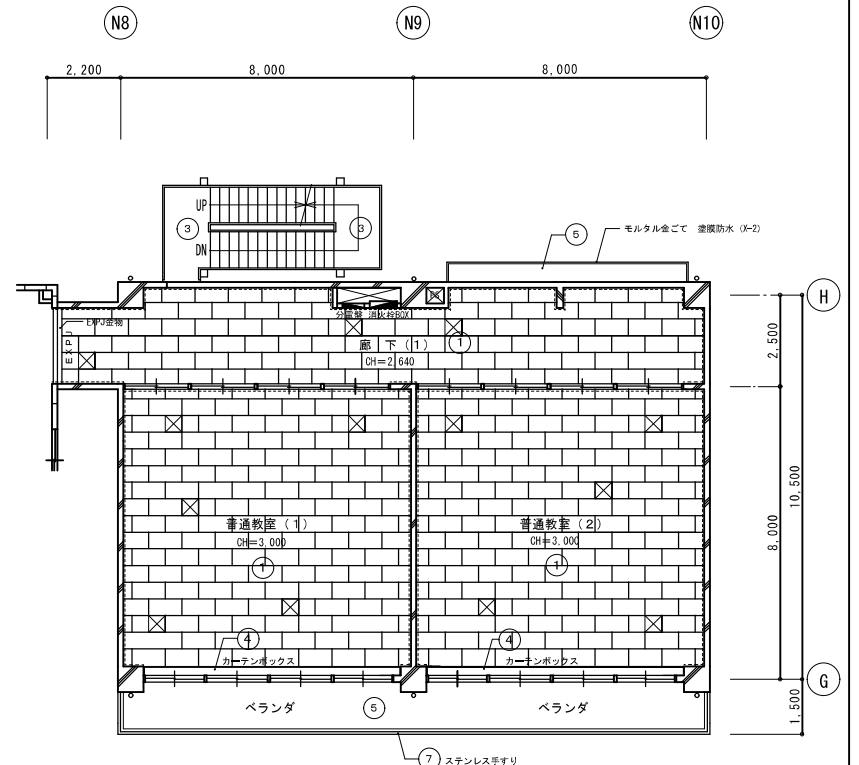
1階天井伏せ図 S=1/100

サッシシーリング (MS-2)  
 ※ アスファルト舗装：密粒度ｱｽﾌﾙﾄ舗装 T=50 路盤工 T=150とする。  
 (周囲側溝、舗装周囲に向かって水勾配を取ること。)



天井仕上リスト	
①	LGS下地 化粧石膏ボード 455×910
②	モルタル金ごて下地 EP-G塗装
③	鉄骨部 (柱・梁・床・手すり) 亜鉛メッキ処理
④	木製カーテンボックス SOP塗装 (ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ+ﾌﾞﾗｯｼﾝｸﾞ+ﾌﾟﾗｲﾝﾄ共)
⑤	コンクリート打ち放し下地 アクリルリシン吹き付け
⑥	LGS下地 珪酸カルシウム板 1,820×910 T=6 EP-G塗装
⑦	コンクリート打ち放し下地 珪酸カルシウム板吹き付け
☒	天井点検口 アルミ製 (白色) 450×450
-----	天井廻り縁 塩ビ製 (突きつけ)

※3階は2階に準ずる。  
 ※天井点検口は各階合計30ヶ所とする。  
 (打ち合わせに上決定する。)



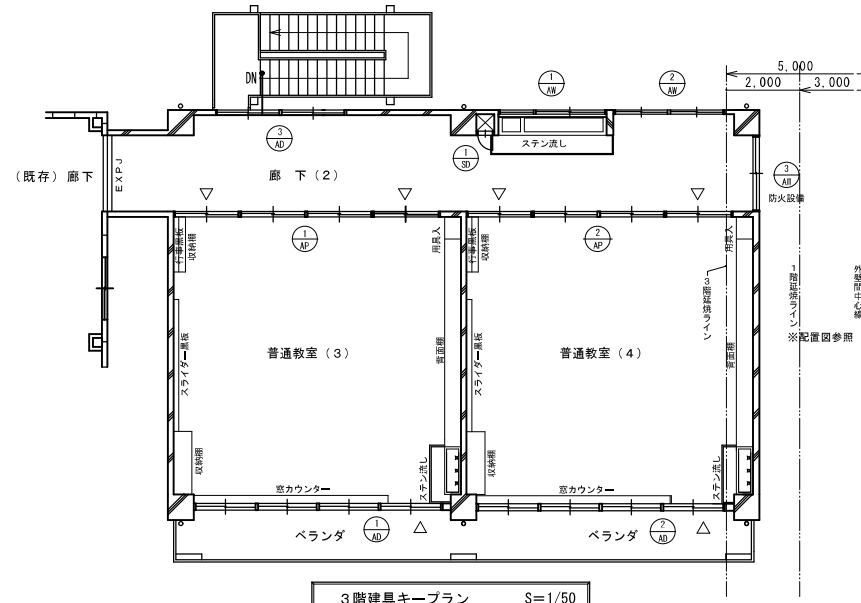
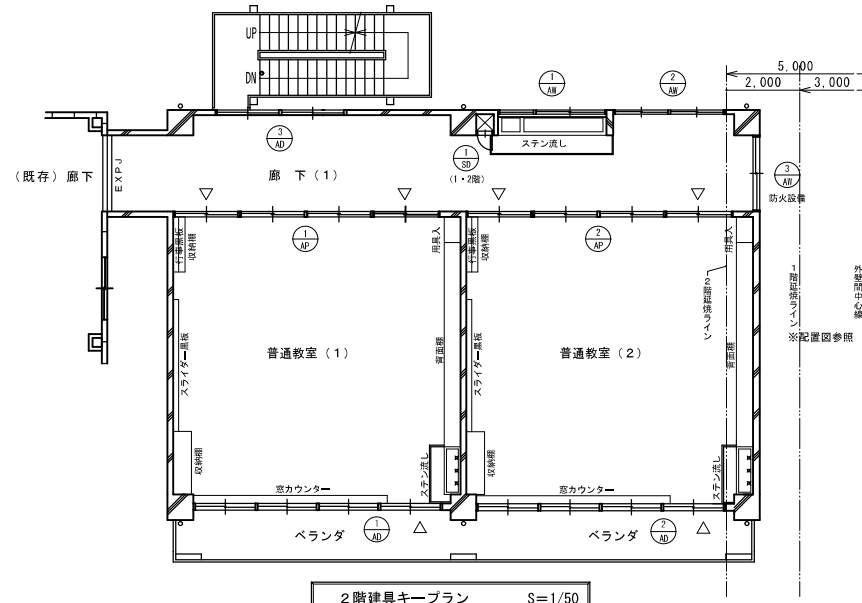
【普通教室 採光検討】 ※電気設備照度計算設計値: 515LX  
 床面積: 8.0 × 8.0 = 64.0 m<sup>2</sup>  
 必要採光面積: 64.0 × 1/5 = 12.8 m<sup>2</sup>  
 採光有効面積: 1.59 × 1.0 × 6ヶ所 + 1.7 × 1.0 × 2ヶ所  
 = 12.94 m<sup>2</sup>  
 判定: 12.8 < 12.94 m<sup>2</sup> ∴ OK

室名	普通教室 (1~4)	
床	複合フローリングt=15張 (クッション t=2含む)	
巾木	木製巾木 H=100 SOP塗装	
壁	腰: 石こうボード t=12, 5+9, 5下地 EP-G塗装 H=1,200 (木脚縁下地 グラスウール断熱材 t=25充填) 掲示壁: 木脚縁ベニアt=9下地 グラスウール断熱材 t=25 充填 掲示用クロス貼	
天井	LGS下地 化粧石こうボード張り t=9,5	
備考	ステンレス流し 収納棚 背面棚 用具入 掲示壁 木製室名札 100×300	<p>防火上主要な間仕切仕様</p> <p>アルミパーテーション (新設)</p> <p>ステンレスカーテンレール (天付付) カーテン (W7,300×H2,100)</p> <p>掲示壁 (腰上は全て)</p> <p>用具入</p> <p>背面棚 (39人用)</p> <p>ステンレス流し (3ヶ所)</p> <p>木製カーテンボックス: SOP塗装</p> <p>ステンレスカーテンレール (天付付) カーテン (W7,260×H2,050)</p> <p>窓サッシ: OSCL塗装</p> <p>腰: EP-G塗装</p> <p>収納棚</p> <p>スライダー黒板</p> <p>行事黒板</p> <p>収納棚</p> <p>腰: EP-G塗装</p>

室名	廊下 (1・2)	
床	複合フローリングt=15張 (クッション t=2含む)	
巾木	木製巾木 H=100 SOP塗装	
壁	EP-G塗装 H=1,200 (木脚縁下地 グラスウール断熱材 t=25充填) 掲示壁: 木脚縁ベニアt=9下地 グラスウール断熱材 t=25 充填 掲示用クロス貼	
天井	LGS下地 化粧石こうボード張り t=9,5	
備考	ステンレス流し 掲示壁	<p>掲示壁 (腰上は全て)</p> <p>掲示壁 (腰上は全て)</p> <p>木製長切機: 25 SOP塗装 分集機</p> <p>消火BOX</p> <p>木製長切機: W25 SOP塗装</p> <p>石こうボード t=12, 5下地 化粧ケイカル板 T=6</p> <p>ステンレス流し (3ヶ所: 4ヶ所)</p> <p>※2階分電盤: W600×H2,640 3階分電盤: W600×H1,000</p> <p>EXPJアルミ製 (床・壁・天井)</p> <p>既存渡り廊下</p> <p>既存渡り廊下</p>

MEMO		室名	ピロテー (駐車スペース) (一部)	
		床	アスファルト舗装 t=50 路盤工 t=150	
		巾木	コンクリート打ち放し H=400	
		壁	コンクリート打ち放し下地 複層塗材E吹き付け LGS 90タイプ下地 押し出し成形セメント板 T=18 EP-G塗装	
		天井	LGS下地 珪酸カルシウム板張り張り t=6 EP-G塗装	
備考	コーナーガード H=1,500 車留め (コンクリート製) 区画線工 W150	<p>防火上主要な間仕切仕様</p> <p>アルミパーテーション</p> <p>アルミパーテーション</p> <p>OPEN</p> <p>既存渡り廊下</p>	<p>コンクリート打ち放し下地 複層塗材E吹き付け</p> <p>LGS 90タイプ下地 押し出し成形セメント板 T=18 EP-G塗装 (両面シーリング)</p> <p>消火BOX</p> <p>コーナーガード H=1,500 (16ヶ所)</p> <p>OPEN</p> <p>GL (1FL)</p> <p>2,200</p> <p>995</p>	

MEMO		一級建築士事務所 熊本県知事登録 第1899号 一級建築士 大倉登棟 第218467号 <b>有限会社 ウテナ設計</b> 熊本市北区室園町3番48号 代表取締役 富田隆信 (登録建築士) TEL 096-345-0171	管理建築士 DRAW.C DRAW.C DRAW.C PROJECT 令和6年度泗水小学校増築工事	D. TITLE 2階展開図	DATE R6.3.15	NO. A-25
					SCALE A1:1/50 A3:1/100	

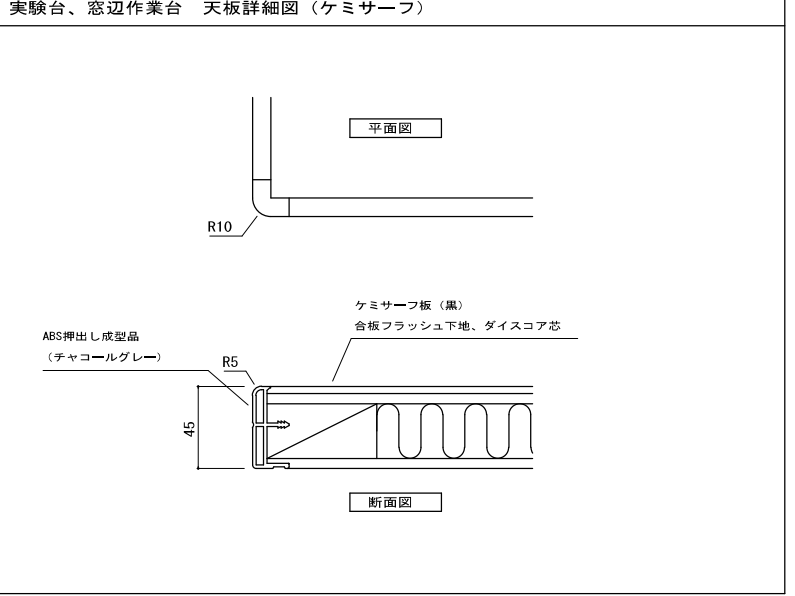
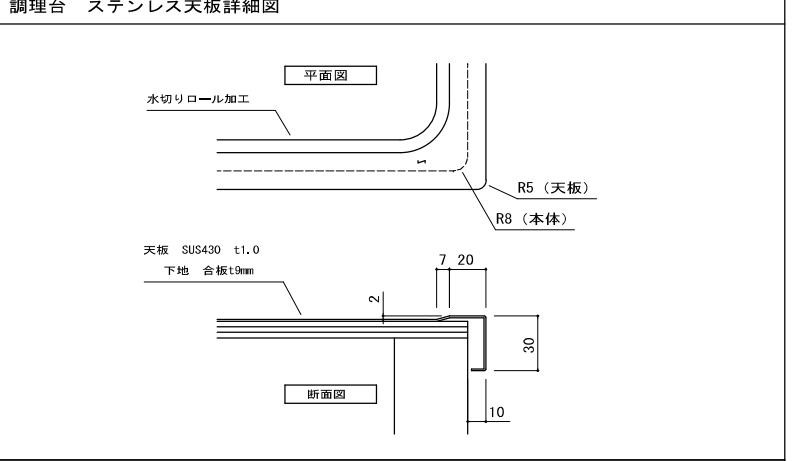
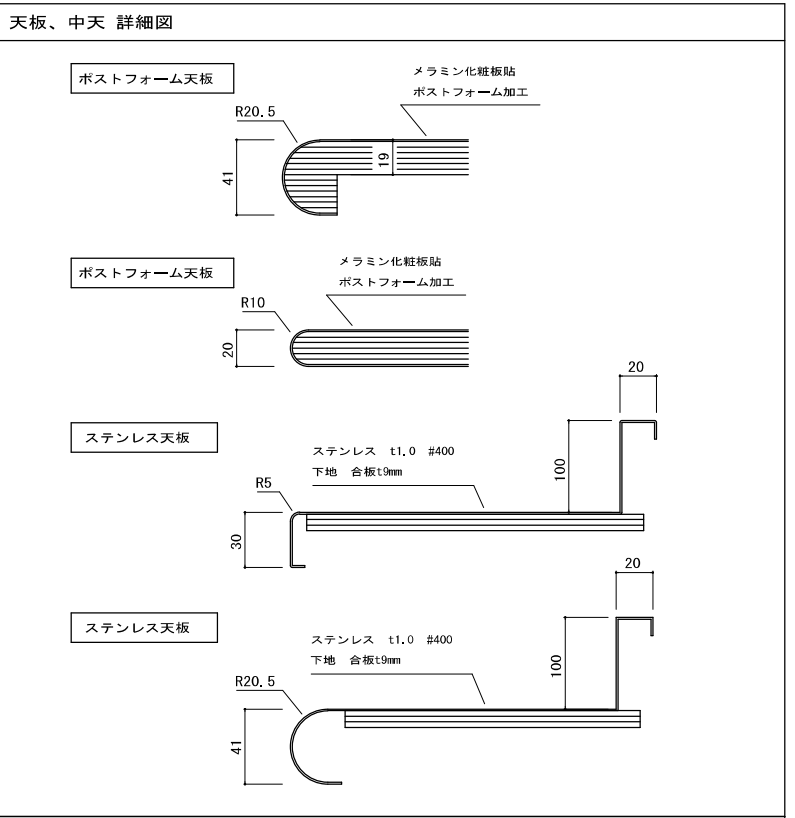
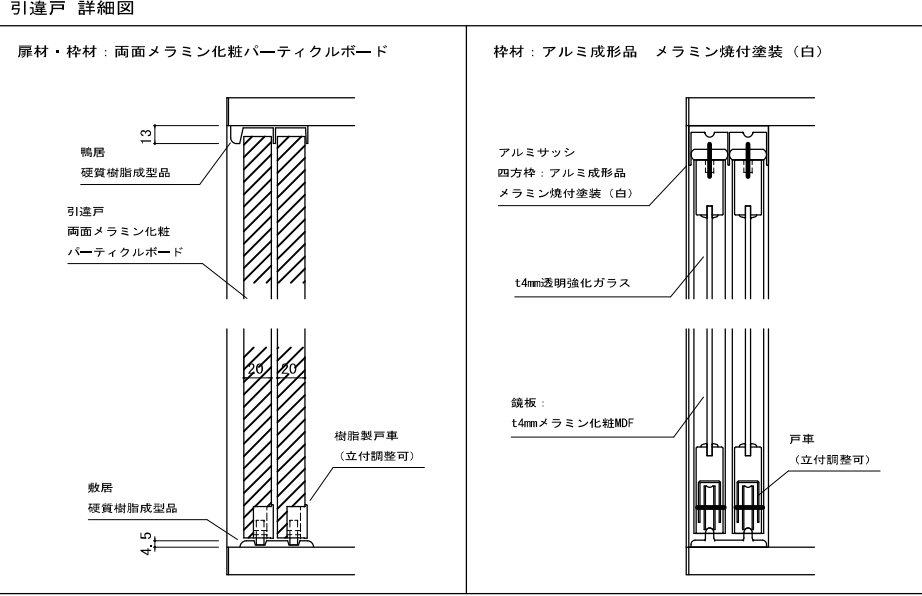
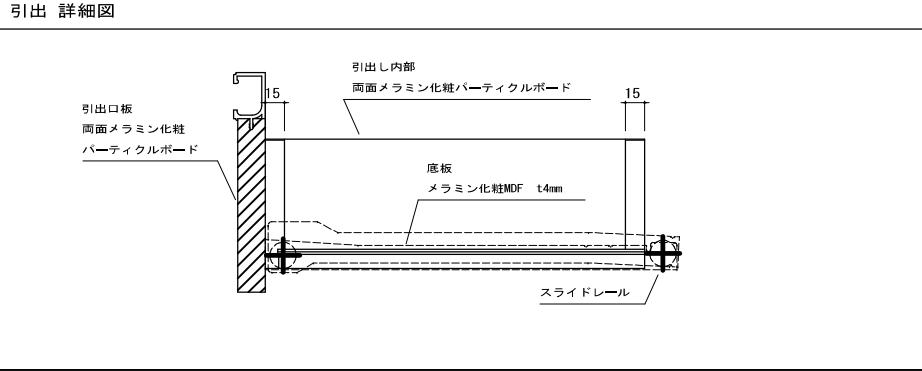
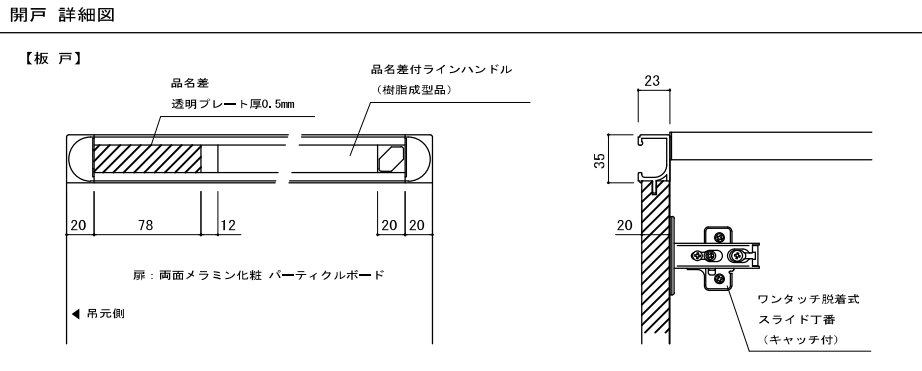
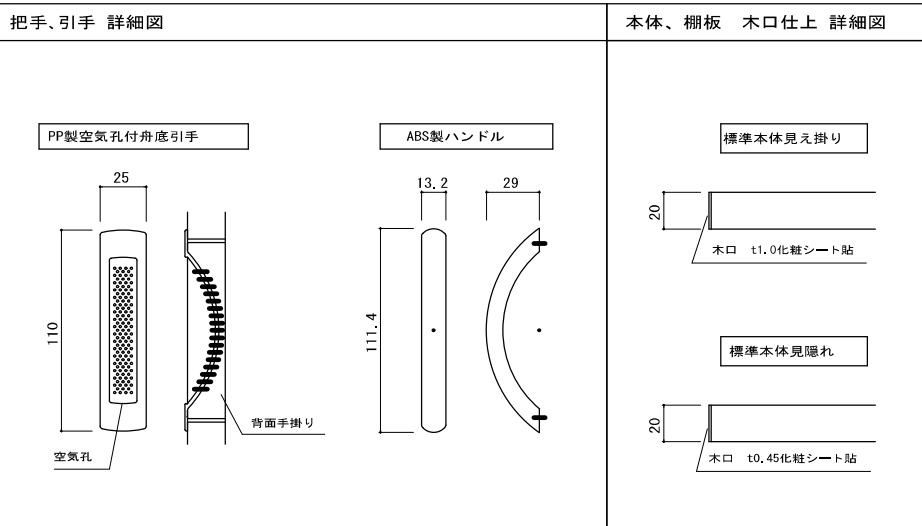
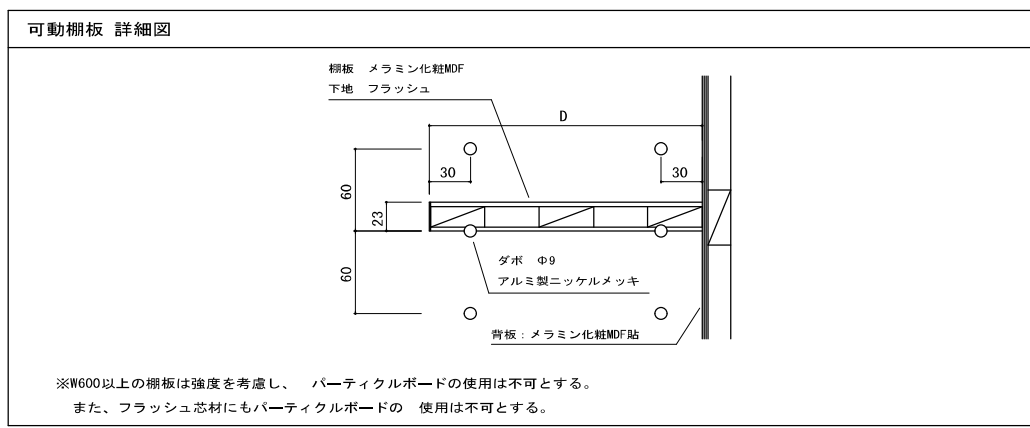


【特記事項】

1. 廊下通り外部サッシはアルミ顔縁とする。
2. 教室通り外部サッシはアルミ顔縁+木製 SOP塗装顔縁とする。
3. 外部サッシ廻りは変成シリコンシーリング (MS-2) 10\*10とする。
4. 外部サッシアルミ水切り廻りは変成シリコンシーリング (MS-2) 15\*10とする。
5. ガラス留めは全てシリコンシーリング 5\*5程度とする。

記号・個数	① 2ヶ所	② 2ヶ所	③ 2ヶ所	④ 2ヶ所
内観図				
型式	引き違いドア (3連引き違い窓・引き違いランマ付)	引き違いドア (3連引き違い窓・引き違いランマ付)	引き違いドア (引き違い窓・引き違いランマ付)	引き違い窓
見込	70	70	70	70
仕上	シルバー色	シルバー色	シルバー色	シルバー色
硝子	強化ガラス (学校向け) (スクールテンバ) t=4+4 空気層 t=6	強化ガラス (学校向け) (スクールテンバ) t=4+4 空気層 t=6	強化ガラス (学校向け) (スクールテンバ) t=4+4 空気層 t=6	強化ガラス (学校向け) (スクールテンバ) t=4+4 空気層 t=6
金物	クレセント・戸車・その他標準一式	クレセント・戸車・その他標準一式	クレセント・戸車・その他標準一式	クレセント・戸車・その他標準一式
備考	網戸 (ドア以外)・アルミ顔縁・ステンレス下枠・アルミ水切り 非常用出入口表示 (3階)	網戸 (ドア以外)・アルミ顔縁・ステンレス下枠・アルミ水切り 非常用出入口表示 (3階)	網戸 (ドア以外)・アルミ顔縁・ステンレス下枠・アルミ水切り 非常用出入口表示 (3階)	網戸・アルミ顔縁・アルミ水切り
記号・個数	⑤ 2ヶ所	⑥ 2ヶ所	⑦ 3ヶ所	⑧ 4ヶ所
内観図				
型式	引き違い窓 (2連・下扉1付)	引き違い窓	PCスチール点検口	引き違いドア (引き違い窓・引き違いランマ付)
見込	70	70	70	90
仕上	シルバー色	シルバー色	枠: 亜鉛メッキ鋼板 t=1.6 (単板) 焼き付け塗装	枠: シルバー色・扉: アルミ製・メラミン化粧板 t=1.2 P: 耐火パネル: t=35 +メラミン化粧板 t=1.2
硝子	強化ガラス (学校向け) (スクールテンバ) t=4+4 空気層 t=6	網入りトリプル硝子 t=6.6 + Low-Eガラス t=4 空気層 t=6 防火認定: EB-2315-9同等品		強化ガラス (学校向け) スクールテンバ t=4
金物	クレセント・戸車・その他標準一式	クレセント・戸車・その他標準一式	ケースハンドル (錠付)・戸当たりゴム・ステンレス丁番	引き戸錠・スライドレール・クレセント・その他標準一式
備考	網戸・アルミ顔縁・アルミ水切り 非常用出入口表示 (3階)	網戸・アルミ顔縁・アルミ水切り 非常用出入口表示 (3階)		アルミ顔縁・下枠ステンレスガードレール P: 防火上重要な閉じ切り

木製家具標準仕様 『特記無き場合は下記の仕様とする』	
地球環境問題（リサイクル、温暖化等）に配慮し、かつ室内におけるホルムアルデヒドの気中濃度を下げる事に 主眼を置き、各種有機溶剤や可塑性等の有害物質についてもその残留、放散を極力抑制する為に以下の仕様とする。	
両面メラミン化粧 パーティクルボード (ECOボード)	ホルムアルデヒド放散量「0.04mg/l」以下とする。 マテリアルリサイクル可能品（メラミン樹脂含浸の低圧メラミン等は使用不可） 表面材は汚染除去性能を有する。「JIS A5908」適合品の国内生産品とする。
メラミン化粧MDF (NEOボード)	JIS-F☆☆☆☆適合品 「間伐材マーク」、「木づかいサイクルマーク」取得品
ポリエステル 化粧合板	JAS-F☆☆☆☆適合品
各種合板	JAS-F☆☆☆☆適合品
接着剤	厚生労働省のVOC指定13物質を含んでいないものを使用する。F☆☆☆☆適合品
塗料	厚生労働省のVOC指定13物質を含んでいないものを使用する。F☆☆☆☆適合品
本体	主材：両面メラミン化粧パーティクルボード t 20 (ECOボード) 背板、地板取外し部：メラミン化粧MDF (NEOボード) t4mm
木口	本体見掛け非塩ビ化粧樹脂シート t1.0貼 本体見隠れ非塩ビ化粧樹脂シート t0.45貼
天板、中天	高圧メラミン化粧板貼 ポストフォーム加工 ※低圧メラミンソフトフォームは使用不可とする。
実験台、作業台天板 (ケミサーフ)	ケミサーフ：耐薬品性フェノール樹脂板（黒） MDFフラッシュ下地、ダイスコア芯、木口：ABS樹脂エッジ巻（チャコールグレー） ※ ウィルソナート社製ケミサーフ、又は同等品以上とする。
開戸（板戸）	両面メラミン化粧パーティクルボード t 20 (ECOボード)、木口：非塩ビ化粧樹脂シート t0.45貼 ワンタッチ取外し式スライド丁番（キャッチ機能付） 105° 開き
木製引違戸 (板戸)	両面メラミン化粧パーティクルボード t 20 (ECOボード)、木口：非塩ビ化粧樹脂シート t0.45貼 樹脂製戸車（立付け調整可能）、PP樹脂製空気孔付舟底引手、硬質樹脂製数層・鴨居
アルミ引違戸 (ガラス戸)	枠：高剛性アルミフレーム（メラミン焼付塗装：白） 透明強化ガラス t4mm、PP樹脂製空気孔付舟底引手
引出	口板：両面メラミン化粧パーティクルボード t 20 (ECOボード)、木口：非塩ビ化粧樹脂シート t0.45貼 側板、向板：両面メラミン化粧パーティクルボード t 15 (ECOボード) 底板：メラミン化粧MDF t4mm (NEOボード) 品名差付ラインハンドル、スライドレール付（粉体塗装）
可動式棚板	両面メラミン化粧MDFフラッシュ (NEOボード) 棚板底面にずれ止めのダボジャクリを施すこと。 ※W600以上の棚板は強度を考慮し、パーティクルボードの使用は不可とする。 また、フラッシュ芯材にもパーティクルボードの使用は不可とする。 棚受けダボ：φ9mmネジ込式 (W1/4) アルミ製ニッケルメッキ P=60mm 3段
台輪	ポリエステル化粧合板貼 下地：ランバーコア合板 t 15 (四方組) ※壁面固定の家具は不陸調整の上、台輪化粧材「後貼」とする。
SUS天板	SUS304及びSUS430 t1.0 表面仕上：#400 低温アルゴン溶接加工品 下地：合板 t9mm
シンク	SUS304及びSUS430 t1.0 表面仕上：#400 低温アルゴン溶接加工品 ※板厚が薄くなるため、プレス加工品は使用不可とする。
排水トラップ	M-14AP：樹脂製、N-14BP：樹脂製（ステンレスプレート、大型ゴミゴ付）、N-14AS：ステンレス製 トラップ接続径：全て40A ※給排水管、及び接続は設備工事とする。
共通	※「日本家具保証協会」認定企業の生産製品、及び監理製品とする。 ※施工承認時に製作家具のカタログを提出し、監理者へ商品説明をおこなうこと。 ※「西尾家具工業社」製品、又は同等品以上とすること。 ※製作家具本体は国内生産品とする。



K-1 2・3階 普通教室 (背面棚+用具入+ステンレス流し) 4ヶ所

仕様	
本体主材	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼 *地盤 ステンレス板貼 SUS430 t1.0mm(掃除用具入)
引違戸	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:シート貼 スライド丁番、ABS樹脂製ハンドル(白) マグネットキャッチ
固定棚	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼
台輪	ポリ合板貼
附属品	
ハンガーパイプ	ステンレス巻パイプφ25(Sカン9ヶ付) 1
フック	玉付回転フック(KK-30) 3
親市扉付(戸蓋)	ステンレス巻パイプφ9.5(L350) 2

仕様	
天板	ステンレス SUS430 t1.0mm(取付) 表面仕上:#400
シンク	ステンレス SUS430 t1.0mm 表面仕上:#400
本体主材	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼 *取外し式地盤:メラミン化粧MDF(4mm(ビス止))
引違戸	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:シート貼 樹脂成型レール、調整式戸車、樹脂製空気孔付角底引手
台輪	ポリ合板貼
附属器具	
樹脂製排水トラップ	M-14AP 1

備考 両面メラミン化粧パーティクルボード、メラミン化粧MDFは表面材に汚染除去性能を有する。  
ホルムアルデヒド放散量「0.04mg/l」以下とする。

排水栓 材・工事 設備工事(家具工事)  
排水トラップは材のみ支給、工は設備工事(家具工事)  
樹脂木の縁起に関する取付工事は一切別途(家具工事)  
シーリングは材・工事別途(家具工事)

K-2 2・3階 普通教室(収納棚①) 4ヶ所

仕様	
本体主材	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼
引違戸	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:シート貼 樹脂成型レール、調整式戸車、樹脂製空気孔付角底引手
棚板	メラミン化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シートt1.0mm貼 棚ダボφ9(3段)
台輪	ポリ合板貼
備考	両面メラミン化粧パーティクルボード、メラミン化粧MDFは表面材に汚染除去性能を有する。 ホルムアルデヒド放散量「0.04mg/l」以下とする。

K-3 2・3階 普通教室(収納棚②) 4ヶ所

仕様	
天板	メラミン化粧板貼 ポストフォーム加工
本体主材	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼
引違戸	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:シート貼 樹脂成型レール、調整式戸車、樹脂製空気孔付角底引手
棚板	メラミン化粧MDFフラッシュ 木口:樹脂シートt1.0mm貼 棚ダボφ9(3段)
台輪	ポリ合板貼
備考	両面メラミン化粧パーティクルボード、メラミン化粧MDFは表面材に汚染除去性能を有する。 ホルムアルデヒド放散量「0.04mg/l」以下とする。

黒板工事

2・3階 普通教室 (UDスライダー黒板)	アルミ枠スチール黒板 W3,600×H1,200(上枠ゲージ付)	4ヶ所
2・3階 普通教室 (行事用黒板)	アルミ枠スチール黒板 W1,500×H1,100	4ヶ所

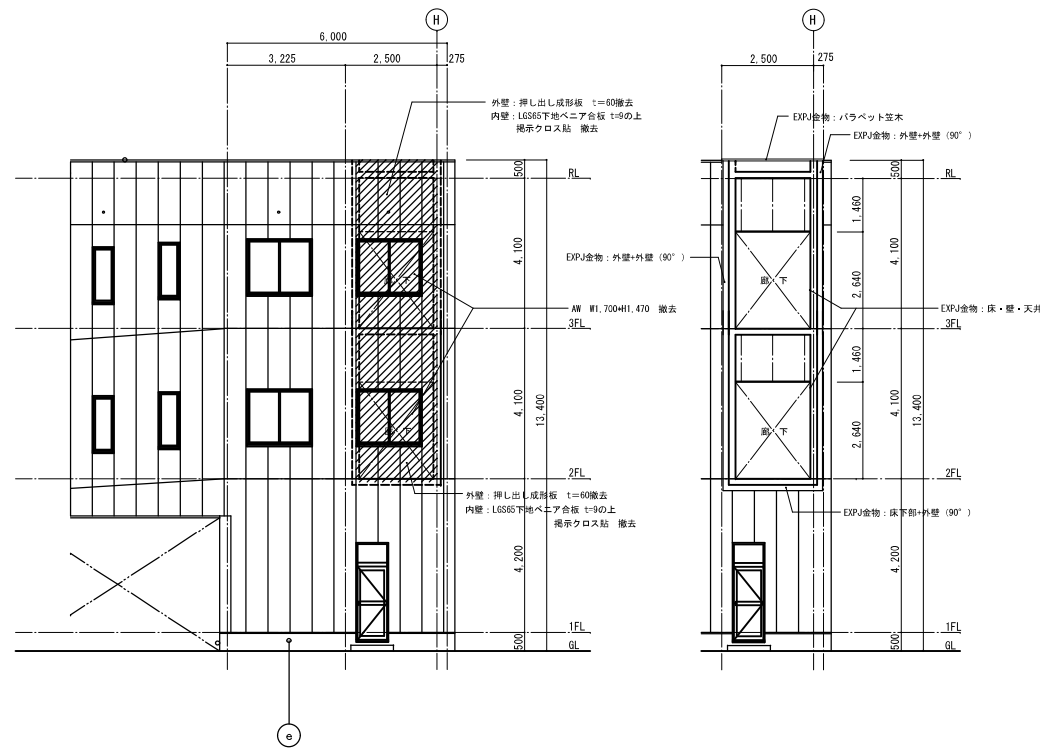
参考 位置、高さ寸法は既存に準ずる。  
※詳細はメーカー仕様による。

K-4 2・3階 廊下 (ステンレス流し) 2ヶ所

仕様	
天板	ステンレス SUS430 t1.0mm(取付) 表面仕上:#400
シンク	ステンレス SUS430 t1.0mm 表面仕上:#400
本体主材	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:樹脂シートt1.0mm貼 *取外し式地盤:メラミン化粧MDF(4mm(ビス止))
引違戸	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:シート貼 樹脂成型レール、調整式戸車、樹脂製空気孔付角底引手
工事フタ	両面メラミン化粧パーティクルボード 木口:シート貼 (ビスキャップ止)
エプロン	メラミン化粧板貼
台輪	ポリ合板貼
附属器具	
樹脂製排水トラップ	M-14AP 2
排水トラップ(掃引)	DSNK-AA 40A(ダイヤレ) 1

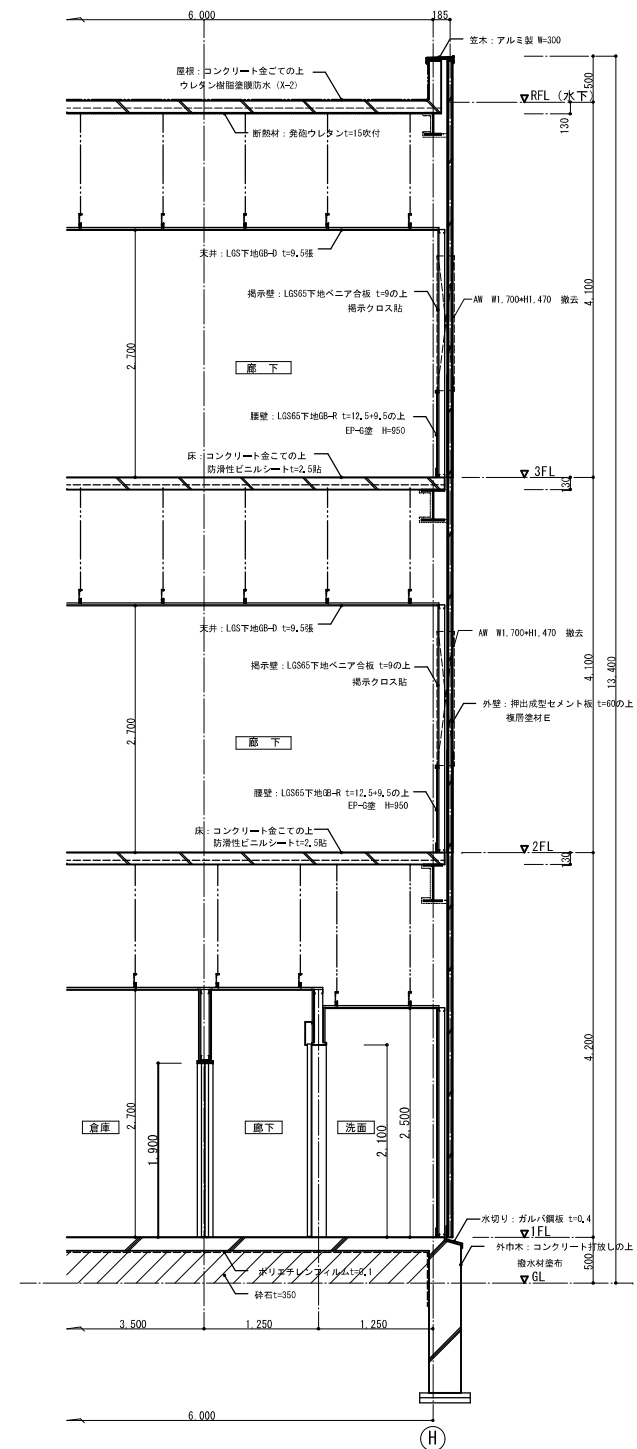
K-5 2・3階 普通教室 (窓カOUNTER) 4ヶ所

断面	サッシ 250 バック材 255 ステンレスビス留め 25 樹脂製取付フック 12ヶ所
平面	4,920 出隅取り R=30 窓カOUNTER 集成材 05L
立面	255 ステンレスアングル @900以内 5ヶ所 樹脂キャップ



渡り廊下取り合い（撤去）図 S=1/100

渡り廊下取り合い（改修）図 S=1/100



（既存）渡り廊下図 S=1/40

※参考図  
※東面廊下取り合い改修

MEMO



一級建築士事務所 熊本県知事登録 第1899号  
一級建築士 大臣登録 第216467号

有限会社 **ウテナ設計**

熊本市北区室園町3番48号  
代表取締役 富田 隆 信  
（管理建築士）  
TEL 096-345-0171

管理建築士 DRAW.C DRAW.C DRAW.C

PROJECT

令和6年度泗水小学校増築工事

D. TITLE

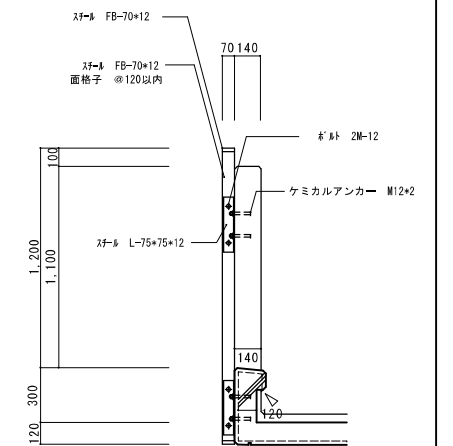
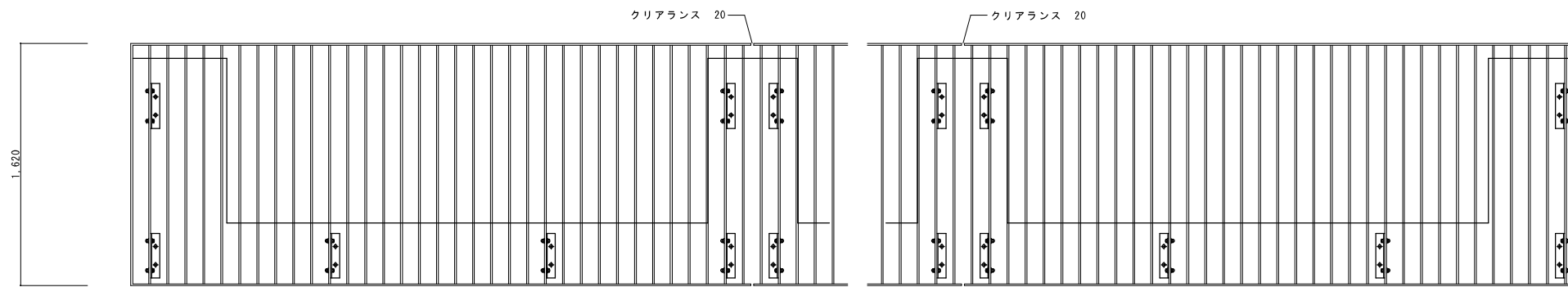
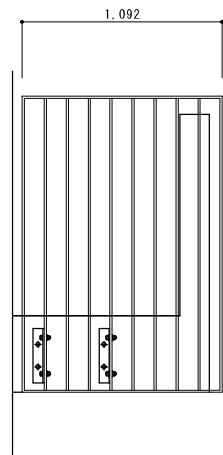
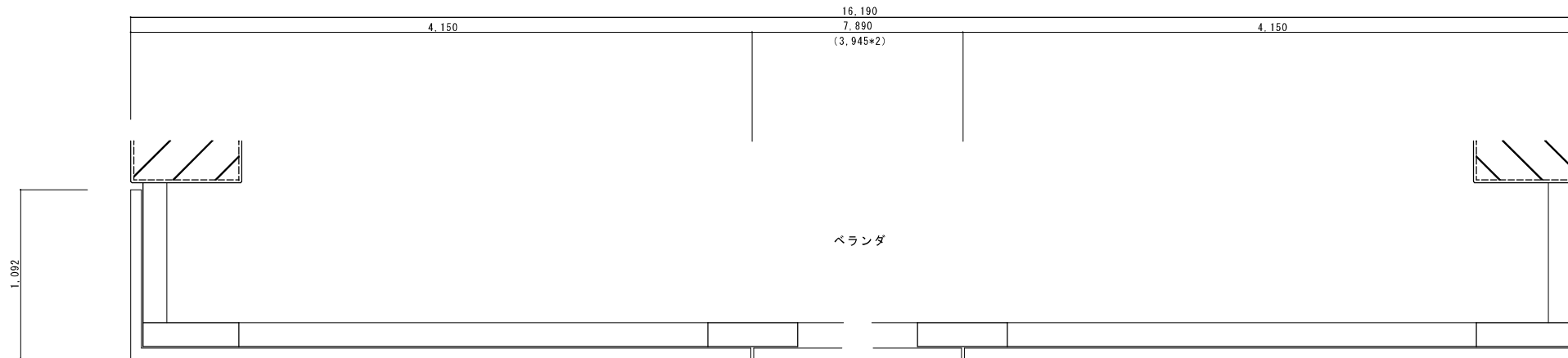
渡り廊下取り合い図

DATE R6.3.15

SCALE A1:1/100 A3:1/200  
A1:1/40 A3:1/80

NO.

A-29



ベランダ手すり詳細図 S=1/20

※2・3階共通、4分割とする。  
 ※全て溶融亜鉛メッキ処理とする。

MEMO



一級建築士事務所 熊本県知事登録 第1899号  
 一級建築士 大臣登録 第218467号

有限会社 **ウテナ設計**

熊本市北区室園町3番48号  
 代表取締役 富田 隆 信  
 (管理建築士)  
 TEL 096-345-0171

管理建築士 DRAW.C DRAW.C DRAW.C

PROJECT

令和6年度泗水小学校増築工事

D. TITLE

その他詳細図

DATE R6.3.15

NO.

SCALE A1:1/20 A3:1/40

A-30



構造特記仕様書

・適用は口内に■印又はレ印を記入

・特記なき事項は、(一社) 公共建築協会 [公共建築工事標準仕様書]、日本建築学会 [鉄筋コンクリート造配筋指針]、日本建築学会 [壁構造配筋指針] による

1. 建物概要

(1) 工事名称 **令和6年度泗水小学校増築工事**  
 工事場所 **菊池市泗水町豊水字道上3481番、福本字平町195番1、200番、231番1の一部**

(2) 構造種別  
 鉄筋コンクリート造  補強コンクリートブロック造  
 鉄骨造  壁式鉄筋コンクリート造  
 鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造  その他 ( )

(3) 階数・規模  
 地上 3 階 地下 0 階 塔屋      階  
 建築面積 205.22 m<sup>2</sup> 延べ面積 530.64 m<sup>2</sup>

(4) 屋上付属物  
 高置水槽 ( kN)  広告塔 ( kN)   
 キュービクル ( kN)  煙突 ( kN)  
 太陽光発電 ( kN/m<sup>2</sup>)

(5) 工事種別  
 新築  増築  改築  用途変更

(6) 増築予定  
 有  無

(7) 特殊荷重  
 倉庫積載床用 N/m<sup>2</sup>  受水槽 kN  
 エレベーター  リフト N  
 ホイスト kN

(8) 基礎形式  
 独立基礎  布基礎  ベタ基礎

(9) 構造計算ルート  
 ・X方向  ルート1  ルート2ー  ルート3  
 ・Y方向  ルート1  ルート2ー  ルート3

(10) その他

2. 使用構造材料

(1) コンクリート ※呼び強度は設計基準強度+構造体強度補正値(S)とする。

種類	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	スラブ	混和剤 (材)	使用区分
普通	F <sub>c</sub> = 27	18	AE材	躯体コンクリート
	F <sub>c</sub> = 21	15	AE材	土間コンクリート
	F <sub>c</sub> = 18	15	AE材	捨コンクリート
	F <sub>c</sub> =			
	F <sub>c</sub> =			
軽量	F <sub>c</sub> =			
	F <sub>c</sub> =			

軽量コンクリート比重  $\gamma =$   
 構造体強度補正値 (S) 普通ポルトランドセメント  
 打込みから材齢28日までの予想平均気温 (°C)  
 ・0°C~8°C未満 S=6N/mm<sup>2</sup> ・8°C~25°C S=3N/mm<sup>2</sup>  
 ・25°C以上 S=6N/mm<sup>2</sup> (暑中コンクリート)

(2) コンクリートブロック  
 ・種類  A種  B種  C種  
 ・厚さ  100  120  150  190

(3) 鉄筋

	材料	径	使用箇所
異形鉄筋	■ SD295A	D10 ~ D16	
	■ SD345	D19 ~ D25	
	□ SD390	D ~ D	
高強度せん断補強筋	□	D ~ D	
溶接金網	□		

(4) 鉄骨

材種	使用箇所	備考
■ SS400		一般構造用鋼板等
□ SN400B		突合溶接使用部
□ SN400C		ダイヤフラム部
□ SN490C		
□ STK400		
□ STKR400		
□ BCP325		
■ BCR295		
□ SSC400		
□		
□		

(5) ボルト類 (特記なき高力ボルト・アンカーボルトは、S10T・SS400規格品とする)

高力ボルト  普通高力ボルトF10T  特殊高力ボルトS10T  
 溶融亜鉛めっきボルトF8T

アンカーボルト  SS400  ABR400   
 メーカー仕様による ※特記なき場合はダブルナットとする  
 (径・長さおよび本数は特記による)

スタッドボルト  特記による   
 (径・長さおよび本数は特記による)

デッキプレート  合成床  一般床  
 (形式は特記による)

3. 地業工事

(1) 地質調査資料  
 有 (  敷地内  近隣 )  
 ボーリング調査  平板載荷試験  
 水平地盤反力係数の測定   
 無 (  調査予定有  調査予定無 )

(2) 直接基礎  
 ・深さ GLー m ・支持層 \_\_\_\_\_  
 ・長期許容地耐力度 kN/m<sup>2</sup>  
 ・地盤改良  有 ( )  無

(3) 杭基礎  別紙図面内特記による。

杭種	材料	施工法
■ 既製杭	□ PHC □ 節付PHC □	□ 打ち込み □ 中継り □ 埋込み (セメントミルク工法) □ 埋込み (認定工法)
		■ 鋼杭 ■ 先端羽根付き鋼管杭 (スクリューパイルEAZEI工法)
		上杭 ( m) □ A □ B □ C 中杭 ( m) □ A □ B □ C 下杭 ( m) □ A □ B □ C 杭長 ( 12.0 m) ■ STK490 (本体部) □ SM490A (羽根部)
□ 場所打杭		□ オールケーシング □ 拡底 □ アースドリル □ ミニアース □ B H □ 深礎 □

杭仕様  
 ・施工計画書承諾 (  有  無 ) ・施工結果報告書 (  有  無 )

杭径 (mm)	長期支持力 (kN)	本	備考
267.4φ×8	530kN	28	

4. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート  
 a) コンクリートはJIS認定工場の製品とし、施工に関してはJASS5による。  
 b) セメントはJIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。  
 c) 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承諾を得ること。  
 d) 生コン業者の設備、資格、ミキサー車の運転時間の確認を行う。  
 e) 寒中、暑中コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法について、工事監理者の承諾を得ること。  
 f) 強度試験供試体は、コンクリート150m<sup>3</sup>毎及びその端数につき1回以上とする。  
 採取方法は、適切な間隔をあけた運搬車から3度に分けて試料を採取する。  
 供試体の本数は、調査管理用3本、28日推定用3本、その他必要に応じて供試体を作成する。  
 供試体採取と合わせて、スラブ・空気量・塩化物量検査を行う。  
 g) 供試体の養生は、調査管理用として標準養生、構造体のコンクリート強度28日推定用及び脱型時期用として現場水中養生とする。

(2) 鉄筋  
 a) 鉄筋はJIS G3112の規格品とする。  
 b) D19未満は、全て重ね継手とする。継手 (D19以上) をガス圧接とする場合は下記による。  
 日本圧接協会 [鉄筋のガス圧接工事標準仕様書]  
 c) ガス圧接部の超音波探傷試験は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごとに1回行い、1回の試験は30本とする。

(3) 型枠  
 a) 材料 合版厚 12mmを標準とする。  
 b) 型枠最小設置期間

種類	せき板	支柱					
		基礎、梁側、柱、壁		スラブ下			
セメントの種類	早強	普通	混合B	早強	普通	混合B	梁下
		混合A	混合A	混合A	混合B		
材令日	15°C以上	2	3	5	8	17	28
	5°C以上	3	5	7	12	2.5	
	0°C以上	5	8	10	15	2.8	
コンクリートの圧縮強度	5N/mm <sup>2</sup>			設計基準強度の85%以上又は12N/mm <sup>2</sup> 以上で安全である事が確認されるまで。		100%	

注) 1. 片持ち梁、庇、スパン9.0m以上の梁下は、工事監理者の指示による。  
 注) 2. 大梁の支柱の盛り替えは行わない。また、その他の梁の場合も、盛り替えは原則として行わない。  
 注) 3. 支柱の盛り替えは、必ず直上のコンクリート打設後とする。  
 注) 4. 盛り替え後の支柱頭部には、厚い受板、角材またはこれに代わるものを置く。  
 注) 5. 支柱の盛り替えは、小梁が終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛り替えを해서는ならない。  
 注) 6. 直上層に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱 (大梁の支柱を除く) の盛り替えを行わないこと。  
 注) 7. 支柱の盛り替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらす恐れのある振動又は衝撃を与えない様に行う事。

5. 鉄骨工事

(1) 工事監理者の承諾を必要とするもの  
 製作工場  製作要領書  工作図  施工計画書  
 認定または登録工場 (大臣認定 ・□ H ・■ M ・□ R ・□ J グレード)  
 材料規格証明書または試験成績書  
 鋼材  高力ボルト  特殊ボルト  頭付スタッド  
 社内検査表

(2) 工事監理者が行う検査項目  
 (□印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)  
 現状検査  組立・開先検査  製品検査  
 建方検査

(3) 溶接部の検査 (完全溶込み溶接部の超音波探傷試験)  
 工場溶接の場合 社 内 ■ 全数検査  
 AOQL 2.5%  AOQL 4.0%  
 第6水準   
 現場溶接の場合 社 内  全数検査  
 第三者機関  全数検査

(4) 防錆塗料  
 a) 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合部の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。  
 錆止めペイントは、4つ星2回塗とする。  
 JIS K5674 1種  JIS K5674 2種  
 b) 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行ない、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗とする。

6. 設備関係

(1) 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承諾を得ること。  
 (2) 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承諾を得ること。  
 (3) 床スラブ内に設備配管を埋め込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし、管の間隔を5cm以上とする。

令第129条の2の4の事項 ※設計が該当する場合には、□にチェックを記入する。  
 ・建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。  
 建築設備 (昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。  
 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の耐力上主要な部分に緊結すること。  
 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、90cm以下とする。  
 煙突の屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とする。  
 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、  
 風圧、土圧及び水圧並びに地震及びその他の震動及び衝撃に対して安全上支障がない構造とすること。  
 建築物の部分を通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。  
 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。  
 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。  
 法第20条第1項から第3項までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては、H12告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。  
 満水時の質量が15kgを超える給湯設備の取付についてはH12告示第1388号第5項による。

7. その他

各試験及び検査は、事前に工事監理者に連絡すること。  
 各試験の供試体は、公的機関にて試験を行い、工事監理者に報告すること。  
 3階以上、1500m<sup>2</sup>を超える建築物は工事監理者と協力し、施工計画報告書、施工結果報告書を作成し、提出すること。

発行 一般社団法人 熊本県建築士事務所協会  
 熊本市中央区九品寺四丁目8-17 熊本県建設会館 別館2階

平成24年 3月 改訂  
 平成26年 6月 改訂  
 平成30年 3月 改訂

建築士法及び著作権法により、本標準図の全部もしくは一部のコピーは禁じられています。  
 本標準図は1物件1工事ごとに原図を使用して下さい。

設計者  
 有限会社 ウテナ設計 代表取締役 富田隆信

工事名称  
 令和6年度泗水小学校増築工事  
 図面名称  
 構造特記仕様書

番号  
 S-01  
 承諾

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

**1-1 基本事項**

5 1 一般事項

- 仕様材料、工法等は構造特記仕様書による。
- 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書にて指定した標準仕様書及び日本建築学会「JASS5 (2015)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
- 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
- 本標準図に示す単位は特記なき限り全てmmとする。

**2-1 鉄筋の表示記号**

5 2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	●	×	◇	○	●	●	●	◆	◆	■	
呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

○ フックのない場合  
○ フックのある場合  
○ 本数に差がある場合  
○ 機械式継手表示  
○ 溶接継手表示 (ガス圧接)

**2-2 鉄筋の折り曲げ**

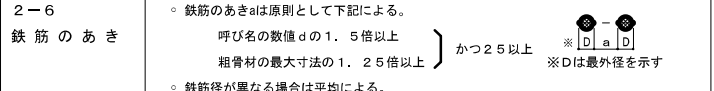
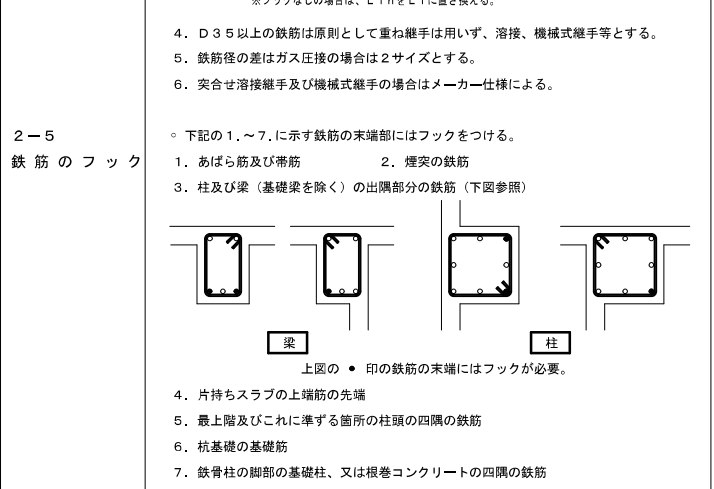
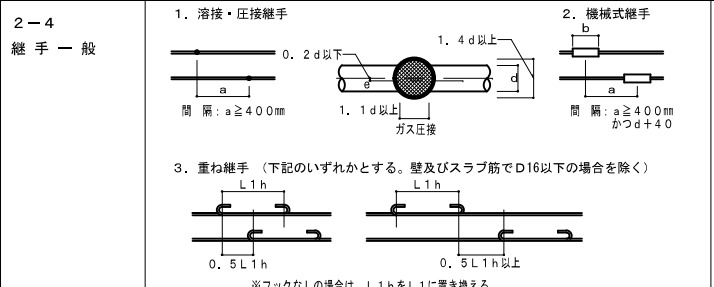
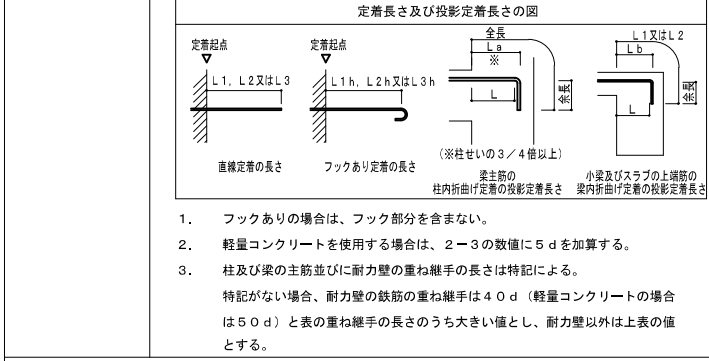
鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径 (D)		
		SD295A, SD295B, SD345 D16以下	SD345 D19~D38	SD390 D19~D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°		3d以上	4d以上	5d以上
90°		3d以上	4d以上	5d以上
135°及び90° (値より筋)		3d以上	4d以上	5d以上

(注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。  
2. 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

**2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ**

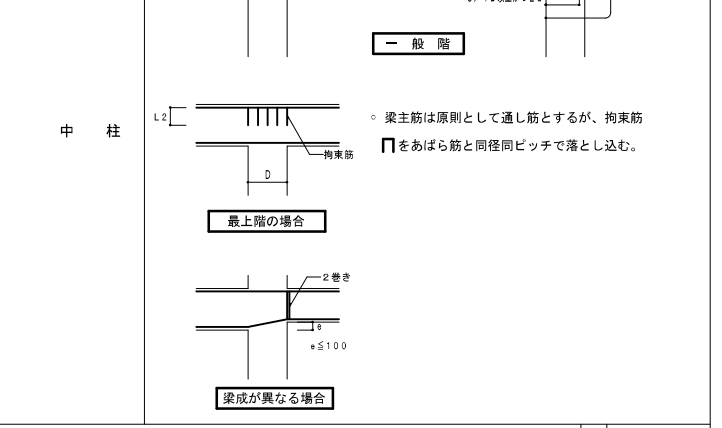
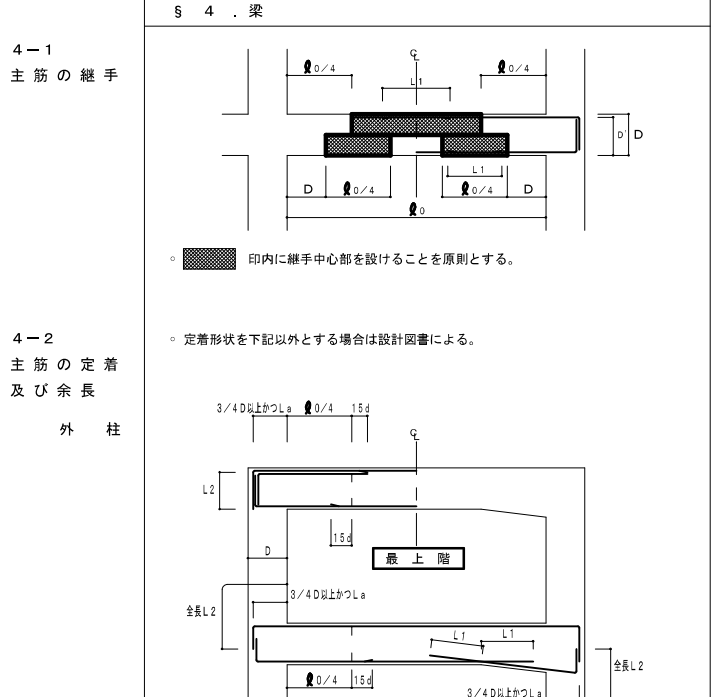
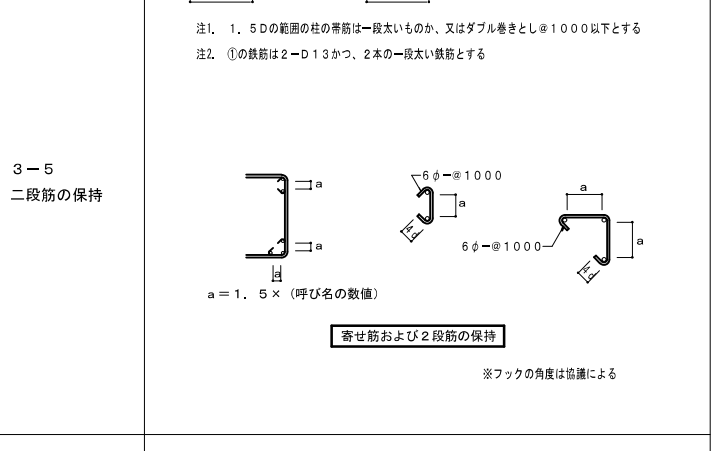
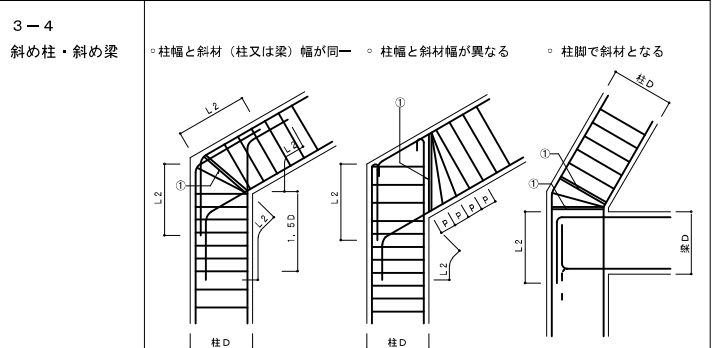
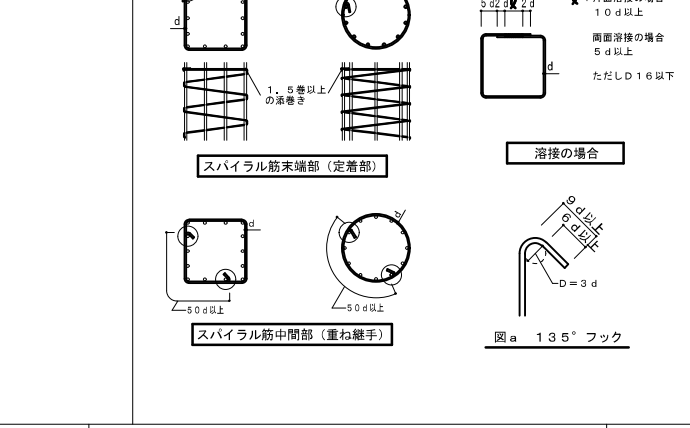
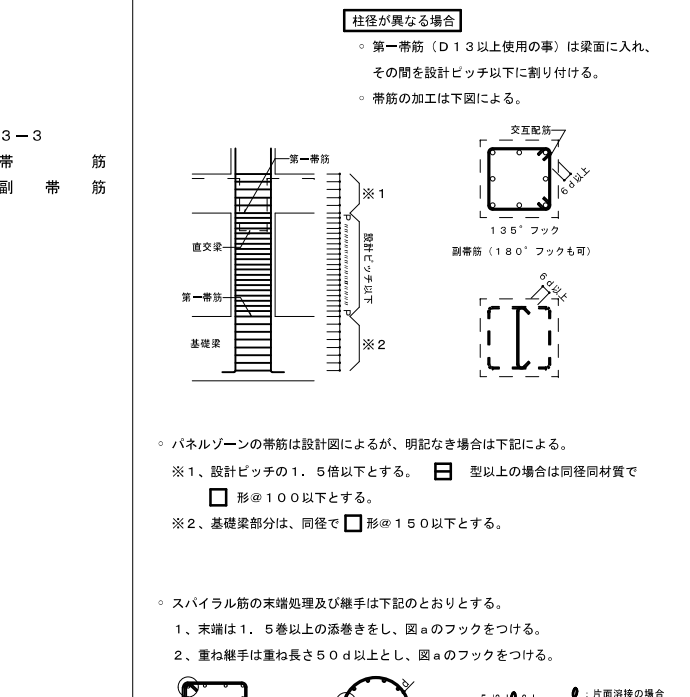
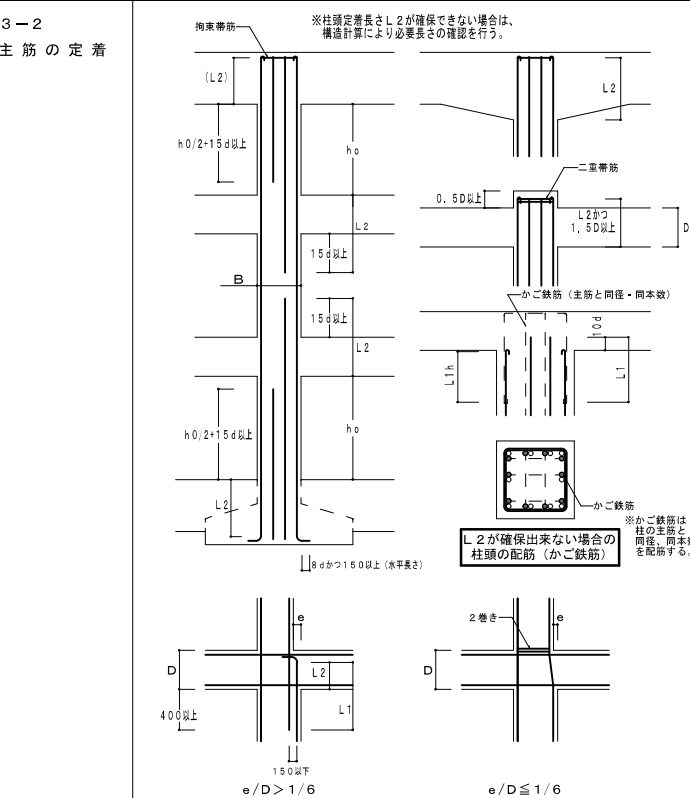
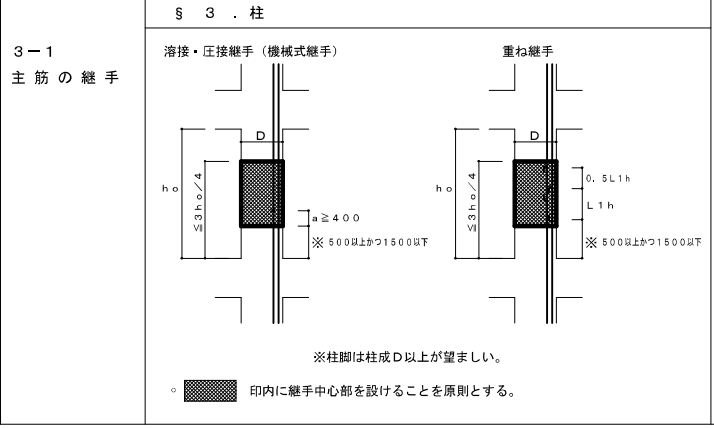
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ			
		重ね継手	一般	小梁・スラブ	投影定着
SD295A, SD295B (SD345)	18	上段 直継 L1	上段 直継 L2	直継 L3	La, Lb
		下段 フック付き L1h	下段 フック付き L2h	フック付き L3h	
	21	35d (35d)	30d (30d)	L3=20d	20d, 15d (20d)
		40d (45d)	35d (35d)		
SD345 (注)	24・27	35d (40d)	30d (35d)	L3h=10d	15d, 15d (20d)
		25d (30d)	20d (25d)		
	30~36	35d (35d)	30d (30d)	床スラブの場合 L3=10d	15d (15d)
		25d (25d)	20d (20d)		
SD390	21	50d	40d	かつ 150以上	20d, 20d
		35d	30d		
	24・27	45d	40d	20d, 15d	
		35d	30d		
30~36	40d	35d	20d, 15d		
	30d	25d			



**鉄筋の最小かぶり厚さ**

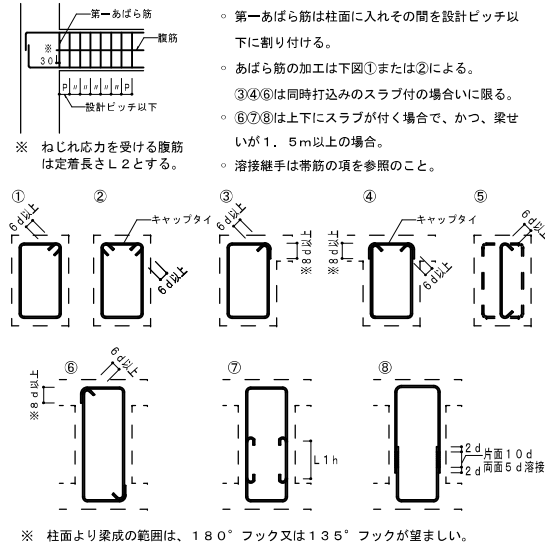
構造部分の種類	最小かぶり厚さ	標準	特記
採用する欄に○印を記入すること			
スラブ、耐力壁	仕上げあり	20	
以外の壁	仕上げなし	30	
土に接しない部分	柱 屋内	仕上げあり	30
	梁	仕上げなし	30
	耐力壁	仕上げあり	30
	屋外	仕上げなし	40
擁壁、耐力スラブ		40	
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁	*40	
	基礎、擁壁、耐力スラブ	*60	
煙突等高熱を受ける部分		60	

- \*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し軽量コンクリートの場合は特記による。
- 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ (仕上塗材、塗装等) のものを除く。
- スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
- 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
- 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。
- 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋径の1.5倍以上を最小かぶり厚さとする。



鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

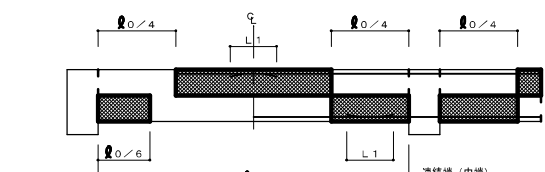
4-3 あばら筋 副あばら筋



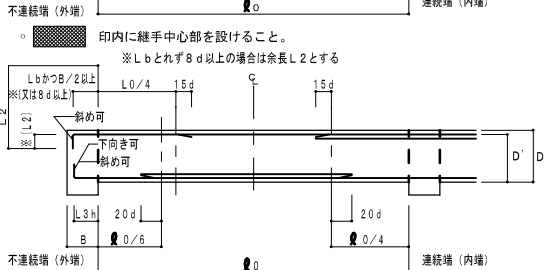
4-4 補助筋



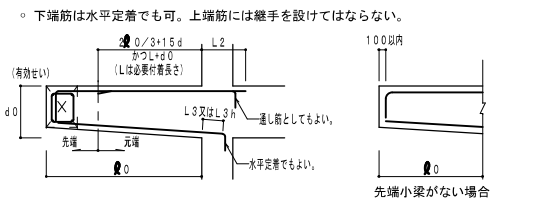
4-5 小梁及び片持梁



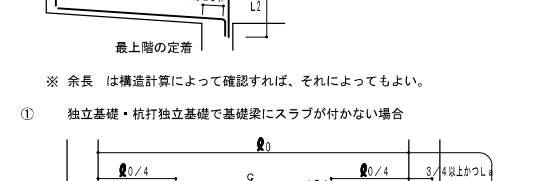
定着



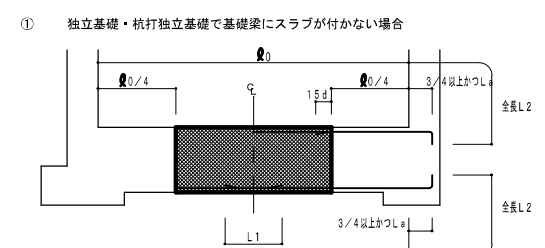
b) 片持梁 定着 継手



4-6 基礎梁及び基礎小梁

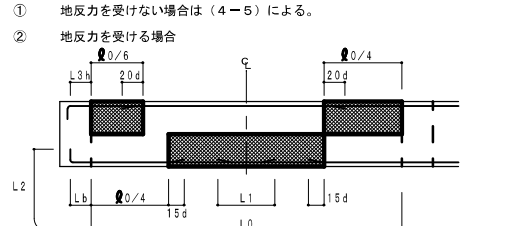
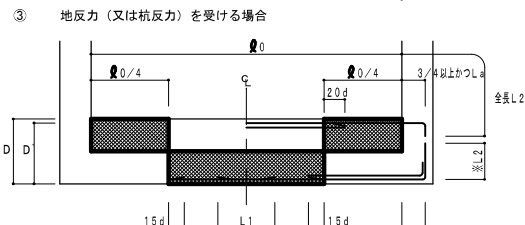
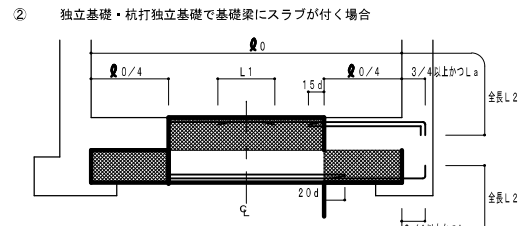


a) 基礎梁の継手及び定着



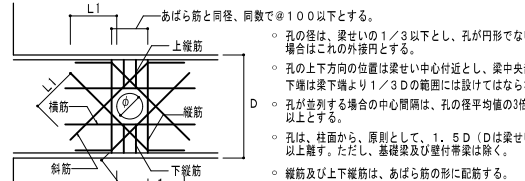
b) 基礎小梁の継手及び定着

4-7 梁の貫通補強

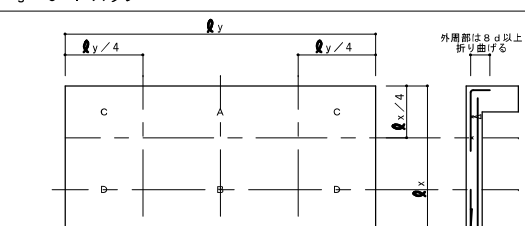


印内に継手中心部を設けることを原則とする。Lbとれない場合4-5a定着によつてよい。

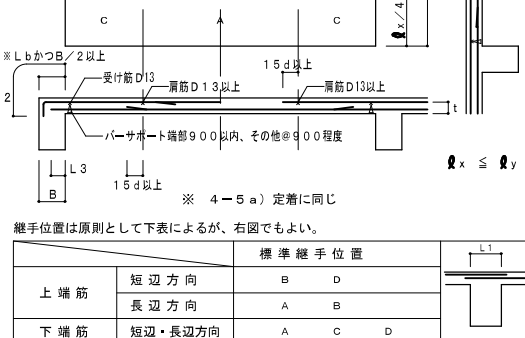
- 補強筋は原則として工場製品(認定品)を使用する。
- 認定品を使用しない場合は下図によるが、補強筋は設計者の指示による。



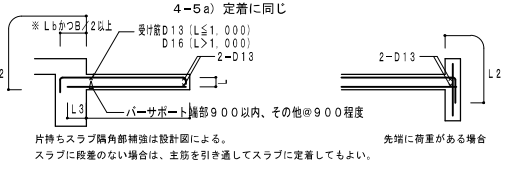
5-1 鉄筋の折り曲げ及び定着



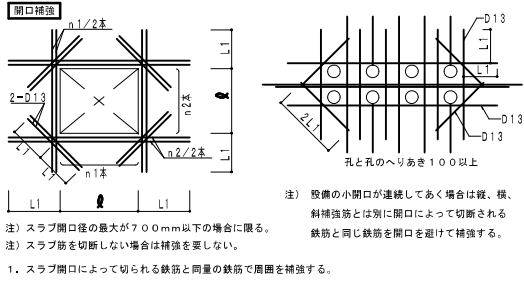
5-2 継手



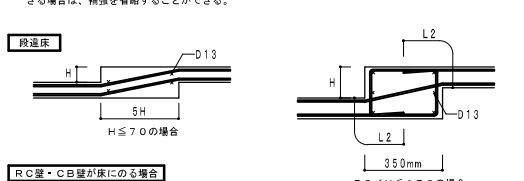
5-3 片持ちスラブ



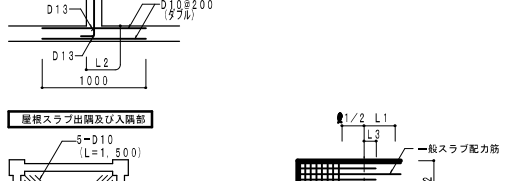
5-4 スラブ開口補強



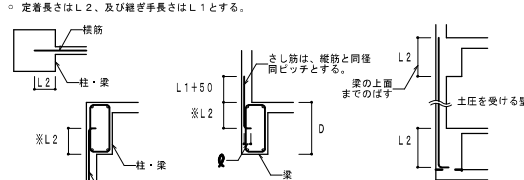
5-5 梁端部



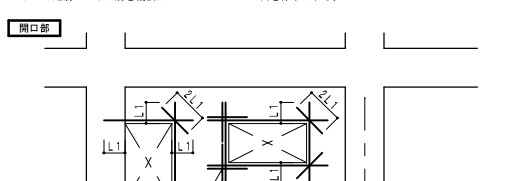
5-6 層別スラブ出隅及び入隅部



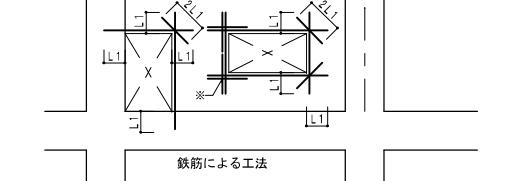
6-1 定着及び継手



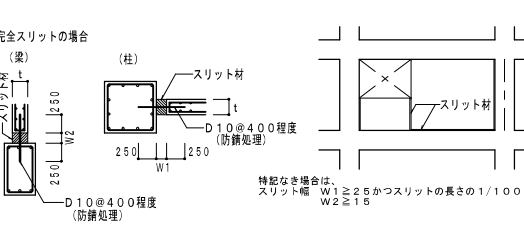
6-2 壁配筋



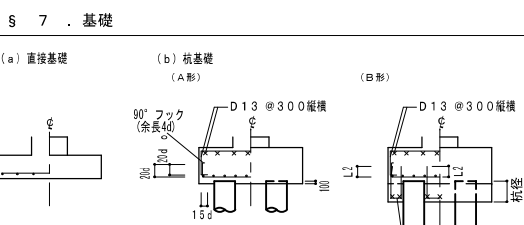
6-3 補強筋



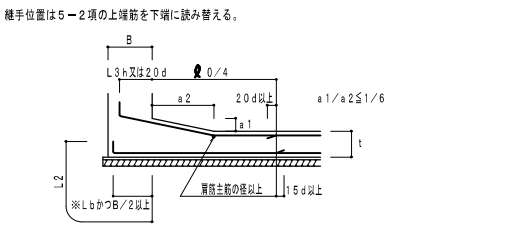
6-4 構造スリット



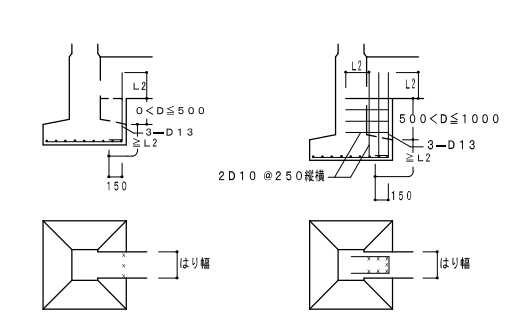
7-1 フーチング基礎



7-2 ベタ基礎継手及び定着



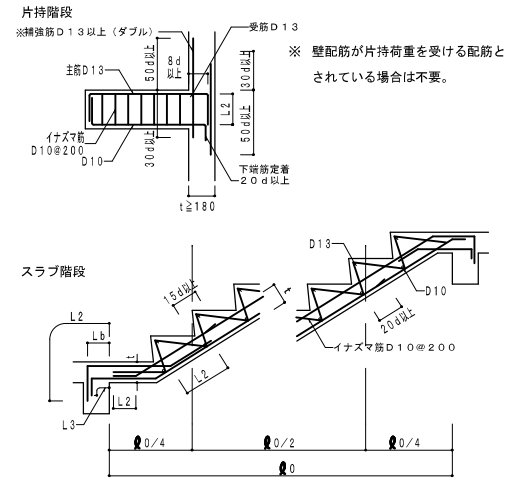
7-3 基礎と基礎梁接合部補強



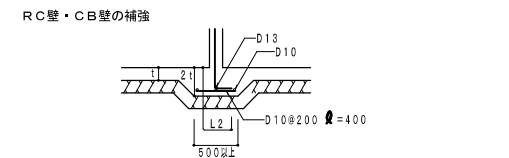
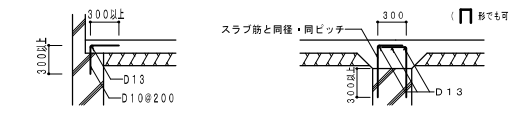
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)

8-1  
階段

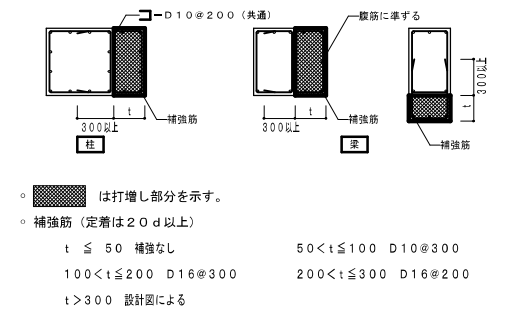
5 8 . その他



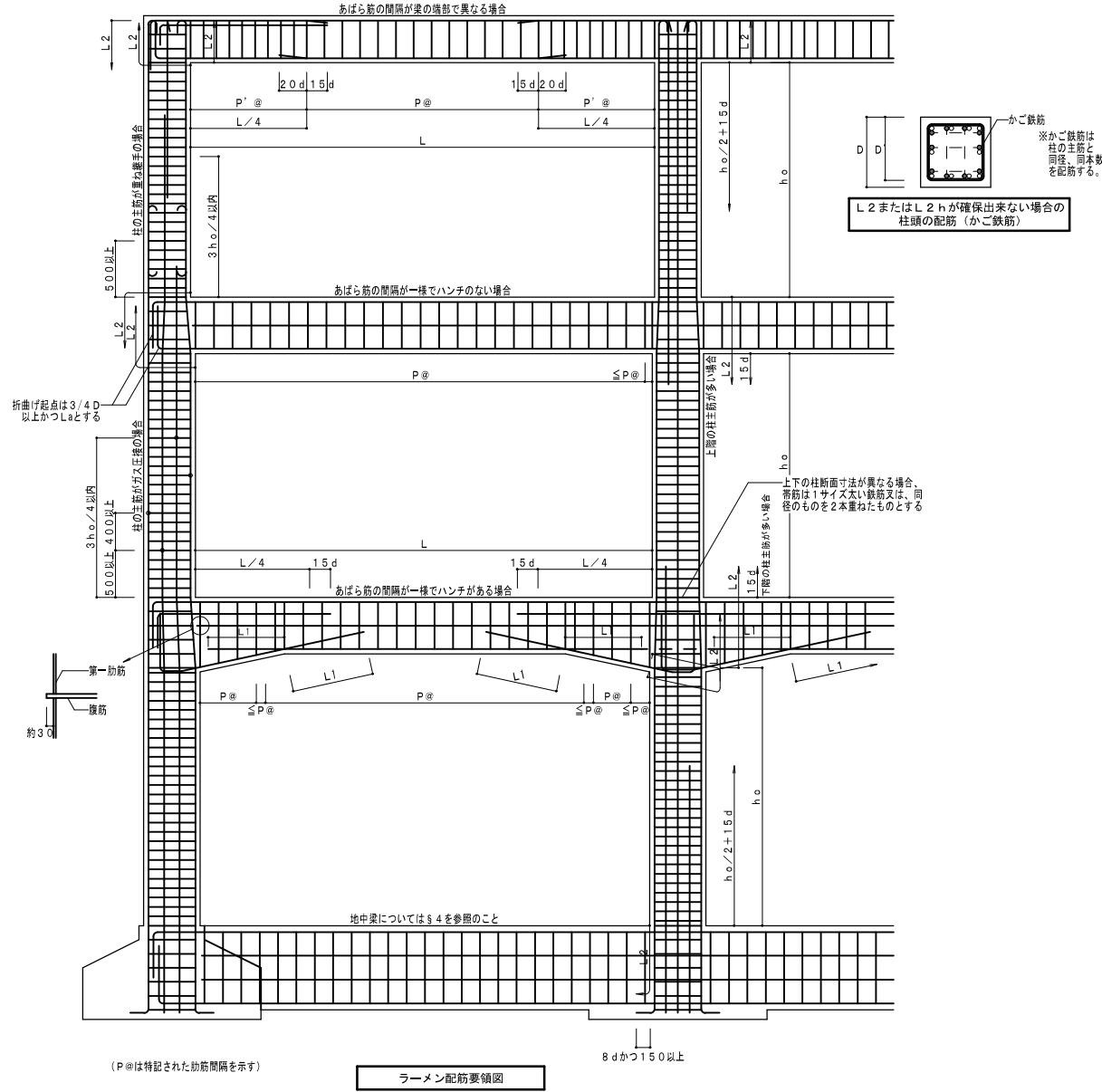
8-2  
土間コンクリート



8-3  
打増し補強



11-1  
ラーメン  
配筋要領図



鉄骨工事標準図 その1	
§ 1 一般事項	
1-1	1) 使用材料、工法等は構造特記仕様による。 2) 設計図面に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書に指定した共通仕様書および標準仕様書による。 3) 製作精度等に関しては、JASS6の付録6「鉄骨精査検査基準」による。 4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。
1-2 その他	
§ 2 共通事項	
2-1	略号
・ AB	アンカーボルト
・ BR	ベースプレート
・ DFR	ダイヤフラム
・ FR	フランジプレート
・ HTB	高力ボルト
・ SR	スプライスプレート
・ WR	ウェブプレート
・ BH	組立てH型钢
・ CHR	チェックプレート
・ FB	フラットバー
・ GR	ガセットプレート
・ RL	リブプレート
・ TB	タンパックス
・ W <sub>1~4</sub>	溶接記号 (§ 8 参照)

§ 4 鉄筋の加工継手及び定着																																																										
4-1	鉄筋末端部の折曲げの形状 (余長および折曲げ内法直径)																																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">折曲げ角度</th> <th colspan="2">折曲げ内法直径</th> <th rowspan="2">折曲げ内法直径</th> <th colspan="2">折曲げ内法直径</th> </tr> <tr> <th>S295A 8 30345</th> <th>S390</th> <th>S295A 8 30345</th> <th>S390</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15°</td> <td>3d以上</td> <td>4d以上</td> <td>4d以上</td> <td>5d以上</td> </tr> <tr> <td>30°</td> <td>3d以上</td> <td>4d以上</td> <td>4d以上</td> <td>5d以上</td> </tr> <tr> <td>45°</td> <td>3d以上</td> <td>4d以上</td> <td>4d以上</td> <td>5d以上</td> </tr> <tr> <td>60°</td> <td>3d以上</td> <td>4d以上</td> <td>4d以上</td> <td>5d以上</td> </tr> <tr> <td>75°</td> <td>3d以上</td> <td>4d以上</td> <td>4d以上</td> <td>5d以上</td> </tr> <tr> <td>90°</td> <td>3d以上</td> <td>4d以上</td> <td>4d以上</td> <td>5d以上</td> </tr> </tbody> </table>		折曲げ角度	折曲げ内法直径		折曲げ内法直径	折曲げ内法直径		S295A 8 30345	S390	S295A 8 30345	S390	15°	3d以上	4d以上	4d以上	5d以上	30°	3d以上	4d以上	4d以上	5d以上	45°	3d以上	4d以上	4d以上	5d以上	60°	3d以上	4d以上	4d以上	5d以上	75°	3d以上	4d以上	4d以上	5d以上	90°	3d以上	4d以上	4d以上	5d以上																	
折曲げ角度	折曲げ内法直径		折曲げ内法直径	折曲げ内法直径																																																						
	S295A 8 30345	S390		S295A 8 30345	S390																																																					
15°	3d以上	4d以上	4d以上	5d以上																																																						
30°	3d以上	4d以上	4d以上	5d以上																																																						
45°	3d以上	4d以上	4d以上	5d以上																																																						
60°	3d以上	4d以上	4d以上	5d以上																																																						
75°	3d以上	4d以上	4d以上	5d以上																																																						
90°	3d以上	4d以上	4d以上	5d以上																																																						
4-2	鉄筋中間部の折曲げの形状 (鉄筋の折曲げ角度 90° 以下)																																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">使用箇所</th> <th rowspan="2">鉄筋径d</th> <th rowspan="2">鉄筋の種類</th> <th colspan="2">曲げ内の直径R</th> </tr> <tr> <th>小梁</th> <th>床版</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a) 梁筋</td> <td>D 16以下</td> <td>SD 295A</td> <td>3d以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>b) スラブ筋</td> <td>D 16以下</td> <td>SD 295B</td> <td>4d以上 (5d以上)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>c) a), b) 以外</td> <td>D 19~D 25</td> <td>SD 345</td> <td>6d以上 (8d以上)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>D 29~D 38</td> <td>SD 390</td> <td>8d以上 (8d以上)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		使用箇所	鉄筋径d	鉄筋の種類	曲げ内の直径R		小梁	床版	a) 梁筋	D 16以下	SD 295A	3d以上		b) スラブ筋	D 16以下	SD 295B	4d以上 (5d以上)		c) a), b) 以外	D 19~D 25	SD 345	6d以上 (8d以上)			D 29~D 38	SD 390	8d以上 (8d以上)																															
使用箇所	鉄筋径d				鉄筋の種類	曲げ内の直径R																																																				
		小梁	床版																																																							
a) 梁筋	D 16以下	SD 295A	3d以上																																																							
b) スラブ筋	D 16以下	SD 295B	4d以上 (5d以上)																																																							
c) a), b) 以外	D 19~D 25	SD 345	6d以上 (8d以上)																																																							
	D 29~D 38	SD 390	8d以上 (8d以上)																																																							
4-3	鉄筋の定着及び重ね継手の長さ																																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">鉄筋の種類</th> <th rowspan="2">コンクリートの設計基準強度 N/mm<sup>2</sup></th> <th colspan="4">フックなし</th> <th colspan="4">フックあり</th> </tr> <tr> <th>L1</th> <th>L2</th> <th>L3</th> <th>L1</th> <th>L2</th> <th>L3</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SD 295A</td> <td>21以上</td> <td>40d</td> <td>35d</td> <td>25d</td> <td>10d</td> <td>30d</td> <td>25d</td> <td>15d</td> <td></td> </tr> <tr> <td>SD 295B</td> <td>21以上</td> <td>40d</td> <td>35d</td> <td>25d</td> <td>10d</td> <td>30d</td> <td>25d</td> <td>15d</td> <td></td> </tr> <tr> <td>SD 345</td> <td>27以下</td> <td>45d</td> <td>40d</td> <td>25d</td> <td>15d</td> <td>30d</td> <td>25d</td> <td>15d</td> <td></td> </tr> <tr> <td>SD 390</td> <td>27以下</td> <td>45d</td> <td>40d</td> <td>25d</td> <td>15d</td> <td>30d</td> <td>25d</td> <td>15d</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 N/mm <sup>2</sup>	フックなし				フックあり				L1	L2	L3	L1	L2	L3		SD 295A	21以上	40d	35d	25d	10d	30d	25d	15d		SD 295B	21以上	40d	35d	25d	10d	30d	25d	15d		SD 345	27以下	45d	40d	25d	15d	30d	25d	15d		SD 390	27以下	45d	40d	25d	15d	30d	25d	15d	
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 N/mm <sup>2</sup>			フックなし				フックあり																																																		
		L1	L2	L3	L1	L2	L3																																																			
SD 295A	21以上	40d	35d	25d	10d	30d	25d	15d																																																		
SD 295B	21以上	40d	35d	25d	10d	30d	25d	15d																																																		
SD 345	27以下	45d	40d	25d	15d	30d	25d	15d																																																		
SD 390	27以下	45d	40d	25d	15d	30d	25d	15d																																																		
<p>1. L1: 2および3以外の定着長さ又は重ね継ぎ長さ 2. L2: 鋼筋の折曲げ位置に設けることによる制限とする。 3. L3: 小梁およびスラブリブの下部の定着長さ。組立、基礎筋スラブおよびこれを受ける小梁を除く。 4. フック有りの場合、定着長さはフック部分の長さを含めない。 5. フック有りの場合は、中間部での折曲げは行わない。</p> <p>継手</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 末端のフックは、定着及び継手の長さには含まれない。</li> <li>2. 継手位置は、応力小さい位置に設けることによる制限とする。</li> <li>3. 直径の異なる材の継手は、細い方の材の継手長さとする。</li> <li>4. 鉄筋径の差が5mmを超える場合は、圧接としてはならない。</li> </ol> <p>ガス圧縮形状</p> <p>圧接部分はグラインダーがけ等を完全に行い、平滑で脱脂や錆などがなく、軸線に直交な面に仕上げ、 3mm以下</p> <p>圧縮継手</p> <p>柱および梁の主筋はガス圧接とする</p>																																																										
<p>4-4 かぶり厚さの最小値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">採用する項目に●を付ける</th> <th rowspan="2">(※1)</th> <th colspan="2">●</th> <th colspan="2">○</th> <th colspan="2">水セメント比 氷セメント比</th> </tr> <tr> <th>5.0%以下</th> <th>5.5%以下</th> <th>5.0%以下</th> <th>5.5%以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床スラブ・壁面スラブ・耐力壁以外の部</td> <td>柱・梁・スラブ・耐力壁</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>20</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>土に接しない部分</td> <td>柱・梁・スラブ・耐力壁</td> <td>30</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>20</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>土に接する部分</td> <td>柱・梁・スラブ・耐力壁</td> <td>40</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>20</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>基礎・埋設・管状スラブ</td> <td>基礎・埋設・管状スラブ</td> <td>60</td> <td>70</td> <td>70</td> <td>70</td> <td>60</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) ※コンクリートの品質および施工方法に依り、工事監理者承認を受けておおよそ30mm又は40mmとする事ができる。 (※2) 屋内外と記載された部分は仕上の有無により異なる。 (※3) ※1は公共建築工事標準仕様書(建築工事編)</p>		採用する項目に●を付ける	(※1)	●		○		水セメント比 氷セメント比		5.0%以下	5.5%以下	5.0%以下	5.5%以下	床スラブ・壁面スラブ・耐力壁以外の部	柱・梁・スラブ・耐力壁	20	30	30	30	20	30	土に接しない部分	柱・梁・スラブ・耐力壁	30	40	40	40	20	30	土に接する部分	柱・梁・スラブ・耐力壁	40	50	50	50	20	30	基礎・埋設・管状スラブ	基礎・埋設・管状スラブ	60	70	70	70	60	70													
採用する項目に●を付ける	(※1)			●		○		水セメント比 氷セメント比																																																		
		5.0%以下	5.5%以下	5.0%以下	5.5%以下																																																					
床スラブ・壁面スラブ・耐力壁以外の部	柱・梁・スラブ・耐力壁	20	30	30	30	20	30																																																			
土に接しない部分	柱・梁・スラブ・耐力壁	30	40	40	40	20	30																																																			
土に接する部分	柱・梁・スラブ・耐力壁	40	50	50	50	20	30																																																			
基礎・埋設・管状スラブ	基礎・埋設・管状スラブ	60	70	70	70	60	70																																																			
<p>4-5 鉄筋のあき</p> <p>隣り合う鉄筋径の平均の1.5倍以上 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ2.5mm以上</p>																																																										
<p>4-6 鉄筋のフック (a~fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)</p> <p>a. あばら筋、帯筋、及幅止め筋 b. 煙突の鉄筋 c. 柱の四隅にある主筋(下図参照)で、重ね継手及び最上階の柱頭にある場合。 d. はり主筋の重ね継手が、はりの出隅及び下端の両端(下図参照)にある場合。(基礎ばりを除く。) e. 片持ちスラブの上端筋の先端 f. その他、本配筋基準に記載する箇所</p> <p>上記の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要</p>																																																										

§ 5 杭頭処理																																			
5-1	PC杭、又はPHC杭等の既設杭頭補強部材																																		
5-2	PC杭、又はPHC杭等の現場補強 (A形の場合)																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">杭径</th> <th colspan="2">所定の位置に止まった場合</th> <th colspan="2">所定より低く止まった場合</th> </tr> <tr> <th>補強筋</th> <th>HOOP</th> <th>補強筋</th> <th>HOOP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>300φ以下</td> <td>350~400φ</td> <td>D 10 @ 100</td> <td>根LH≦6φの場合 H&gt;6φの場合は工事監理者の指示による</td> <td>根LH≦6φの場合 H&gt;6φの場合は工事監理者の指示による</td> </tr> <tr> <td>350~400φ</td> <td>450φ</td> <td>D 10 @ 100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>450φ</td> <td>500φ</td> <td>D 10 @ 100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>500φ</td> <td>600φ</td> <td>D 10 @ 100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>600φ</td> <td></td> <td>D 10 @ 100</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		杭径	所定の位置に止まった場合		所定より低く止まった場合		補強筋	HOOP	補強筋	HOOP	300φ以下	350~400φ	D 10 @ 100	根LH≦6φの場合 H>6φの場合は工事監理者の指示による	根LH≦6φの場合 H>6φの場合は工事監理者の指示による	350~400φ	450φ	D 10 @ 100			450φ	500φ	D 10 @ 100			500φ	600φ	D 10 @ 100			600φ		D 10 @ 100		
杭径	所定の位置に止まった場合		所定より低く止まった場合																																
	補強筋	HOOP	補強筋	HOOP																															
300φ以下	350~400φ	D 10 @ 100	根LH≦6φの場合 H>6φの場合は工事監理者の指示による	根LH≦6φの場合 H>6φの場合は工事監理者の指示による																															
350~400φ	450φ	D 10 @ 100																																	
450φ	500φ	D 10 @ 100																																	
500φ	600φ	D 10 @ 100																																	
600φ		D 10 @ 100																																	
<p>7-2 梁貫通 (つづき)</p> <p>(g) 鉄筋の定着長さは下図による。</p> <p>(h) 孔の径が梁せいりの1/10以下かつ150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げるにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。</p> <p>7-2-2 補強配筋</p> <p>設計図書によるほか、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)別図各部配筋7節による。</p> <p>7-2-3 工場製品【認定品】を使用するときは、設計者及び工事監理者と打合わせること</p> <p>7-3 基礎梁のあばら筋</p> <p>基本: 基礎梁のあばら筋のフック形状は下図の(イ)による。但し、基礎梁の上下にスラブが付く場合で、かつ梁せいりが1.5m以上の場合は下図の(ロ)または(ハ)によることができる。</p> <p>(イ) (ロ) (ハ)</p> <p>腹筋、幅止め筋は設計図による。</p>																																			

§ 6 基礎	
6-1	基礎の配筋
<p>(a) 直接基礎 (b) 杭基礎</p> <p>(A形) (B形) 共通</p> <p>基礎筋</p> <p>基礎筋</p> <p>(A形、B形共通)</p> <p>A形、B形の適用は、図示による</p>	
6-2	基礎接合部の補強
<p>7-1 配筋</p> <p>7-1-1 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付かない場合</p> <p>※(共通) 梁筋の定着は、原則として柱をまたいで引き通すものとする。引き通さない場合は柱内に定着する。但し、上端筋は上向きとすることができる。</p> <p>7-1-2 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付く場合</p> <p>7-1-3 布基礎、べた基礎の場合</p>	
§ 7 地中梁	
<p>7-1-1 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付かない場合</p> <p>※(共通) 梁筋の定着は、原則として柱をまたいで引き通すものとする。引き通さない場合は柱内に定着する。但し、上端筋は上向きとすることができる。</p> <p>7-1-2 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付く場合</p> <p>7-1-3 布基礎、べた基礎の場合</p>	
§ 8 鉄骨加工製作 (記載なき場合は特記仕様書による)	
8-1	鉄骨の加工・製作は特記なきがざり下記による。
8-2	鉄骨製作工場
8-3	設計者又は工事監理者の承諾を必要とするもの。
8-4	設計者又は工事監理者が立合う検査
8-5	溶接部の検査
<p>8-6 防錆塗装</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 防錆塗装の範囲は高力ボルト摩擦接合面、コンクリート埋込部、加工組立後密封される部分、その他指示される部分以外とする。</li> <li>2) 錆止めペイント (F☆☆☆☆)</li> <li>3) 塗装回数</li> <li>4) メッキ処理</li> <li>5) メッキ処理の場合の高力ボルト摩擦面の処理</li> </ol>	
§ 8-1 溶接	
<p>隅肉溶接 <math>t \leq 16</math></p> <p>隅肉溶接 <math>t &gt; 16</math></p> <p>エンドタブ</p> <p>スカラップ</p> <p>改良型スカラップ</p>	

§ 8-1 溶接 (つづき)																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">記号</th> <th rowspan="2">形状</th> <th rowspan="2">適用板厚</th> <th colspan="2">寸法</th> </tr> <tr> <th>幅</th> <th>高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>W<sub>1</sub></td> <td>溶接</td> <td>6 &lt; t ≤ 25</td> <td>a ≤ 6 ± 2 r 0 ~ 2 s ≥ 4.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>W<sub>2</sub></td> <td>溶接</td> <td>10 &lt; t ≤ 32</td> <td>a ≤ 6 ± 2 r 2/3 (t-r) s1 ≥ 4.5 s2 ≥ 6.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>W<sub>3</sub></td> <td>溶接</td> <td>t ≤ 6</td> <td>a ≤ 5 ± 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>W<sub>4</sub></td> <td>溶接</td> <td></td> <td>r 0 ± 2 r 0 ~ 2 s ≥ 4.5 s ≥ 1/4 t, 5</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>本節は半自動溶接の隅肉又は完全溶込みグルーブ溶接の場合を示す。但し、手溶接及び自動溶接にて施工する場合は、製作要領書にて協議する。要当て金を使用する場合は、母材と同質のものを使用する</p>		記号	形状	適用板厚	寸法		幅	高さ	W <sub>1</sub>	溶接	6 < t ≤ 25	a ≤ 6 ± 2 r 0 ~ 2 s ≥ 4.5		W <sub>2</sub>	溶接	10 < t ≤ 32	a ≤ 6 ± 2 r 2/3 (t-r) s1 ≥ 4.5 s2 ≥ 6.0		W <sub>3</sub>	溶接	t ≤ 6	a ≤ 5 ± 1		W <sub>4</sub>	溶接		r 0 ± 2 r 0 ~ 2 s ≥ 4.5 s ≥ 1/4 t, 5	
記号	形状				適用板厚	寸法																						
		幅	高さ																									
W <sub>1</sub>	溶接	6 < t ≤ 25	a ≤ 6 ± 2 r 0 ~ 2 s ≥ 4.5																									
W <sub>2</sub>	溶接	10 < t ≤ 32	a ≤ 6 ± 2 r 2/3 (t-r) s1 ≥ 4.5 s2 ≥ 6.0																									
W <sub>3</sub>	溶接	t ≤ 6	a ≤ 5 ± 1																									
W <sub>4</sub>	溶接		r 0 ± 2 r 0 ~ 2 s ≥ 4.5 s ≥ 1/4 t, 5																									
§ 8-2 柱脚																												
<p>柱脚部共通事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリート表面のレイタンス等を取り除いた後、調査(容積比)セメント</li> <li>1:砂1の履塗りモルタルを平に塗布する。</li> <li>・モルタルを後詰めする場合は、空隙の出来ない様に充填する。</li> <li>・アンカーフレームを使用する場合は、設計図書による。</li> </ul>																												
<p>大匠認定露出型固定注脚</p> <p>大匠認定露出型固定注脚を使用する場合は、メーカー指定の仕様書により施工を行うこと。</p>																												
露出形柱脚半固定																												
<p>平12建告1456号第一項の規定に留意すること ※第82条第一号から第三号までに規定する構造計算を行った場合は、下記の規定は適用しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A、B 0.1 t の基礎に対する定着長さは 20 d 以上かつフックまたはアンカーフレームを取り付け</li> <li>・ A、B 0.1 t の全断面積は柱断面積の 20% 以上とする</li> <li>・ B、P L の板厚は柱板厚の 1.3 倍以上とする</li> <li>・ 構造上主要な柱には柱脚ピン構造は使用してはならない</li> </ul>																												
根巻形柱脚固定																												
<p>この形式の柱脚は特記による。</p>																												
地中梁剛域部埋込み形柱脚固定																												
<p>平12建告1456号第三項の規定に留意すること 但しかぶり厚は構造計算によるD以下とできる ※HOOPは D ≤ 250のときD10@100 D &gt; 250のときD13@100</p> <p>埋込みhは D ≤ 250のとき2.5D以上 D &gt; 250のとき3D以上 柱主筋、補強は特記による (注) 根巻型及び埋込み型の注脚で柱が角型鋼管で、角型鋼管のD/t &gt; 3.3の場合は、ダイヤフラム又はコンクリート充填など、適切な補強を行うこと</p>																												



先端羽根付き鋼管杭 回転埋設工法

スクリーパイル CK-EAZET特記仕様書 (同等品)

(1) 工法の概要

本工法は、杭本体先端部に掘削刀、掘削爪及びびらせん状の羽根を取り付けた鋼管杭を回転埋設させることによって、杭先端羽根部を未掘削地盤に食い込ませながら地中にねじり込み杭基礎工法である。なお、本工法は、国土交通大臣認定工法である。掘進させ、杭本体積分の土砂を杭側方向に押し、無撻土で所定の支持地盤に設置させる

工程の概要は、下記の通りである。

- 杭の建て込み：杭を吊り込んで杭芯に合わせ、杭をセットする。
- 杭の固定：杭先端を杭芯にセットしたら、杭体を振れ止め装置で固定する。
- 回転埋設：杭の鉛直性を確認したら、正回転(右回転)を杭に与えて羽根の推進力で杭を埋設させる。
- 埋設完了：所定深さまで回転埋設が終わったら、モーターを逆回転(左回転)させ、キャップをはずして施工を完了する。

(2) 一般事項

- 本工事は、本特記仕様書による。
- 杭仕様は、下記による。

杭径(Do) (mm)	杭本体部肉厚(t) (mm)	羽根径(Dw) (mm)	羽根肉厚(ts) (mm)	杭長(L=) (m)	杭本数 (本)	設計支持力 (kN/本)
267.4	8.0	700.0	32.0	12.0	28	538

- 本杭施工に先立ち、試験杭を行う(通常1本)。試験杭の本数・位置は、杭伏図による。
- 載荷試験を行う場合は、「建築工事共通仕様書：4-2-3」による。
- 上記によるほかは、施工計画書による。

(3) 試験杭

- 試験杭は、本杭の施工に先立ち、次の事項について確認する。
  - 設計地盤の状況
  - 杭回転圧入状況と土質性状図との整合性
  - 設計地盤の確認(掘削時の回転トルクの変化・貫入量)
- 試験杭の本数、位置は監督員と協議の上決定する。
- 試験杭は本杭を兼ねる事ができるものとする。

(4) 杭の建て込み  
打ち込み

- 杭の吊り込みは、施工機械や杭に損傷を与えないように十分注意する。また、吊り込んだ杭は、杭材の中心を杭芯に合わせるとともに、鉛直性を確認する。
- 杭は施工機械に装備してある振れ止め装置にて固定する。
- 杭の建て込み、振れ止め装置による固定が終了してから徐々に回転圧入を開始する。
- 支持層の確認は、次の方法に基づいて行う。
  - 地盤データに基づき確認する。
  - 杭回転駆動装置モータの油圧値(トルク値)により確認する。
  - 回転埋設時の杭1回転あたりの貫入量より確認する。

(5) 施工機械  
器具

- 施工機械・器具は、杭径・杭長、地盤、敷地の広さ等を考慮し埋設作業ができる機械を選定する。

(6) 施工精度

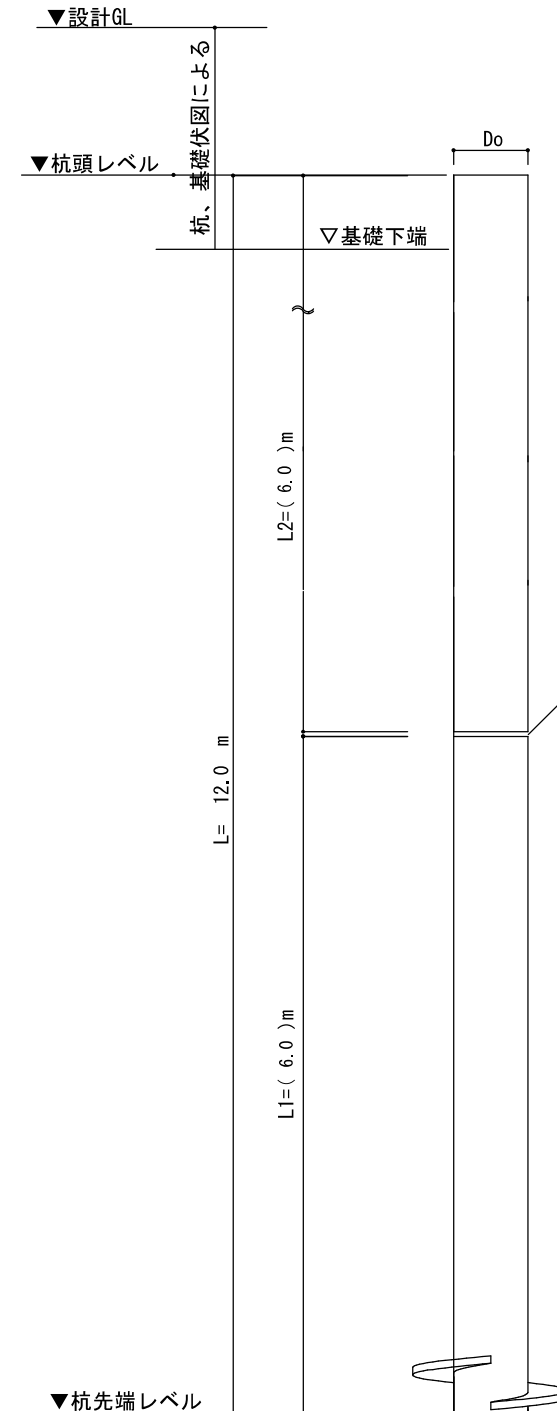
- 杭頭のズレは、±100mm以内とする。
- 杭高止まり量については、監督員に報告し、設計管理者とメーカーの協議の上処置を決める。(この時、「支持層への根入れの確認」や「支持層地盤の不陸」等を考慮し、処置を決めるものとする。)
- 杭の低止まりに関しても設計管理者とメーカーの協議により杭の健全性をチェックする。

(7) 施工記録および施工報告書

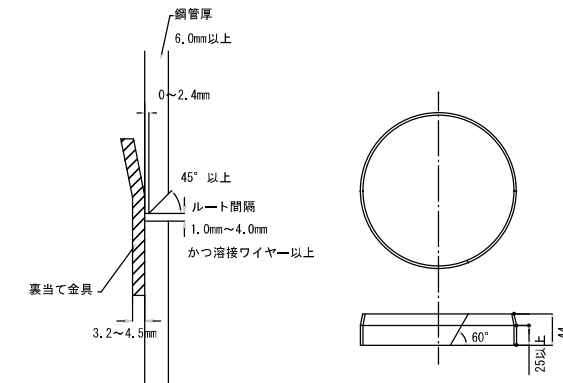
施工記録は、杭施工にあたり、各杭の施工状況を記録し、杭の施工終了後に施工報告書を作成し提出する。

- |              |                |            |
|--------------|----------------|------------|
| (1) 工事件名     | (2) 工事場所       | (3) 施工年月日  |
| (4) 施工機械     | (5) 杭番号        | (6) 杭規格・数量 |
| (7) 杭設置深さ    | (8) 回転終了時のトルク値 | (9) 土質性状図  |
| (10) その他必要事項 |                |            |

杭詳細図



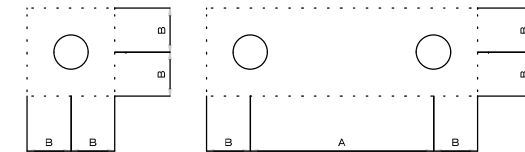
鋼管継手標準図



基礎とフーチング形状例

A: 杭心間隔	2 DW
B: へりあき	1.25 × Do

- ※ DW: 羽根径
- ※ Do: 杭本体径



工法の名称 スクリーパイル CK-EAZET (同等品)

国土交通大臣認定番号TACP-0399 (平成24年3月19日)

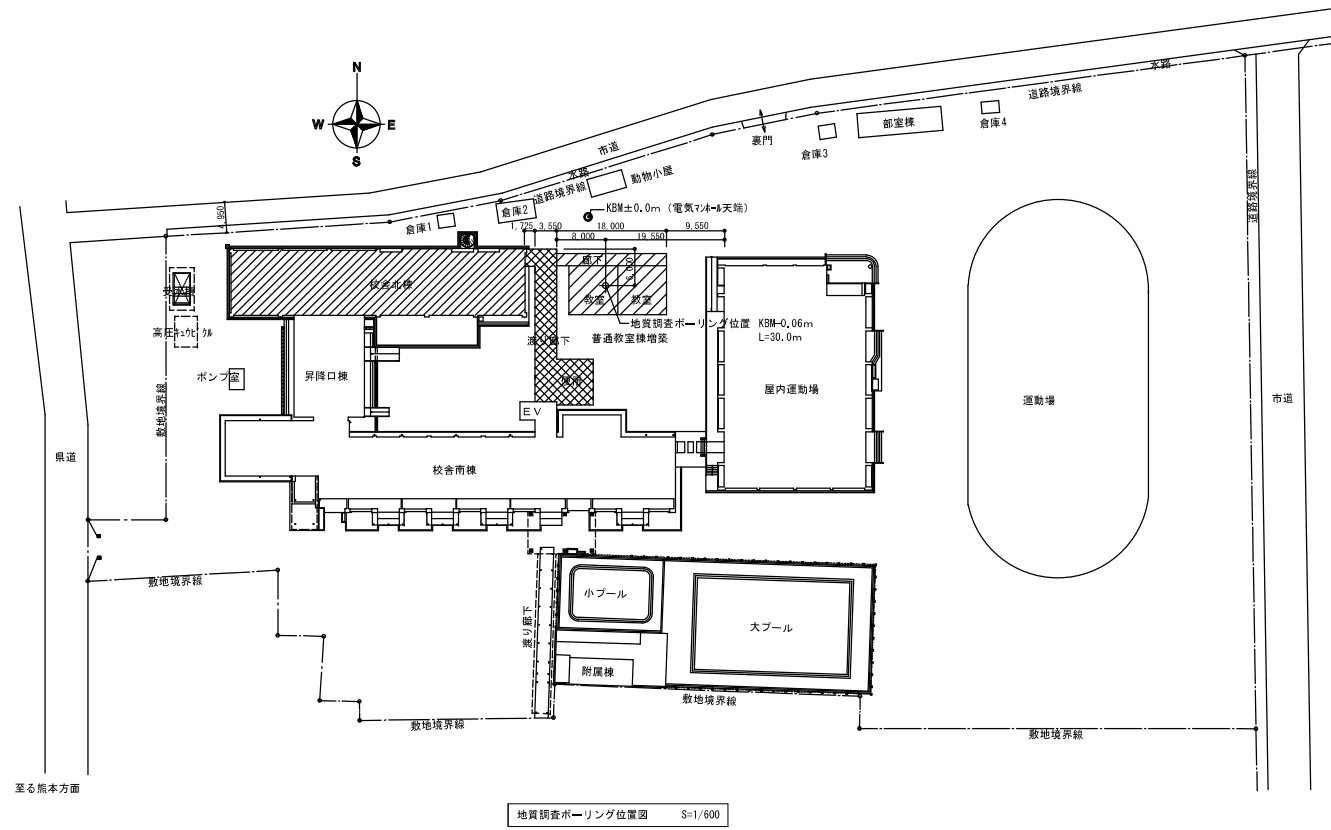
先端地盤: 砂質地盤(砂礫地盤を含む)

国土交通大臣認定番号TACP-0351 (平成23年12月8日)

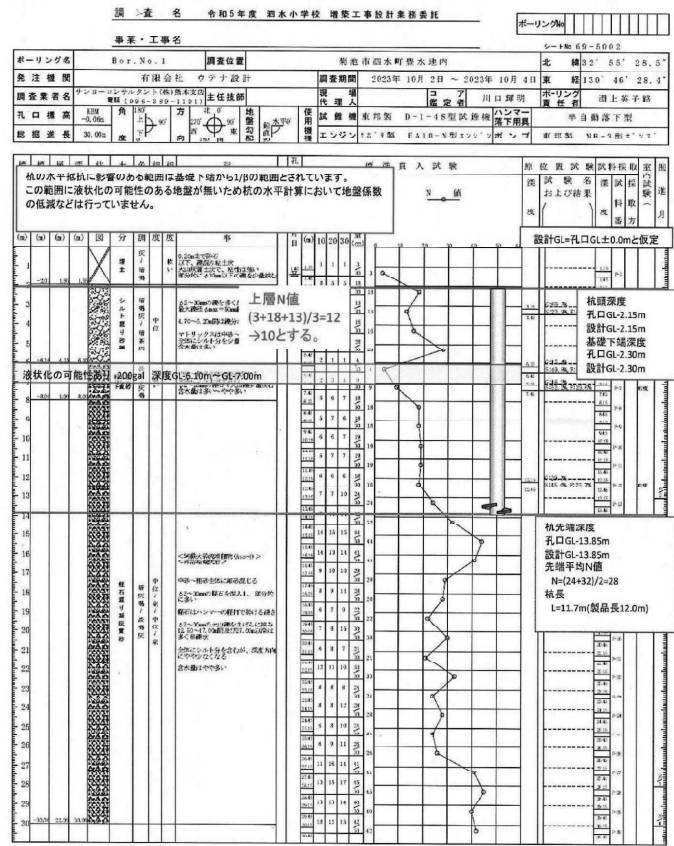
先端地盤: 粘土質地盤

(一財)ベターリビング評定番号CBL FP005-07 (平成30年6月26日)

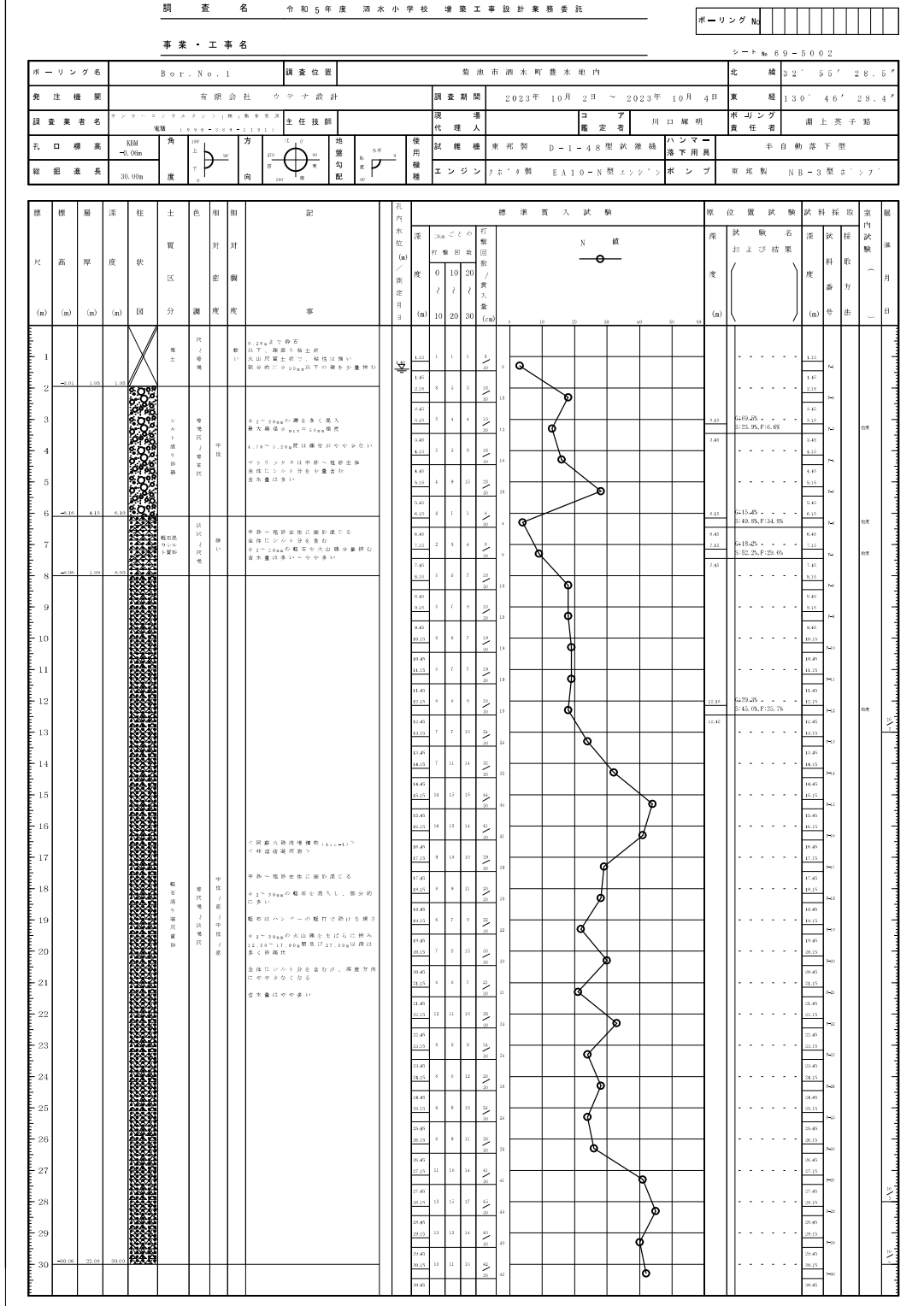
先端地盤: 砂質地盤(礫質地盤を含む)



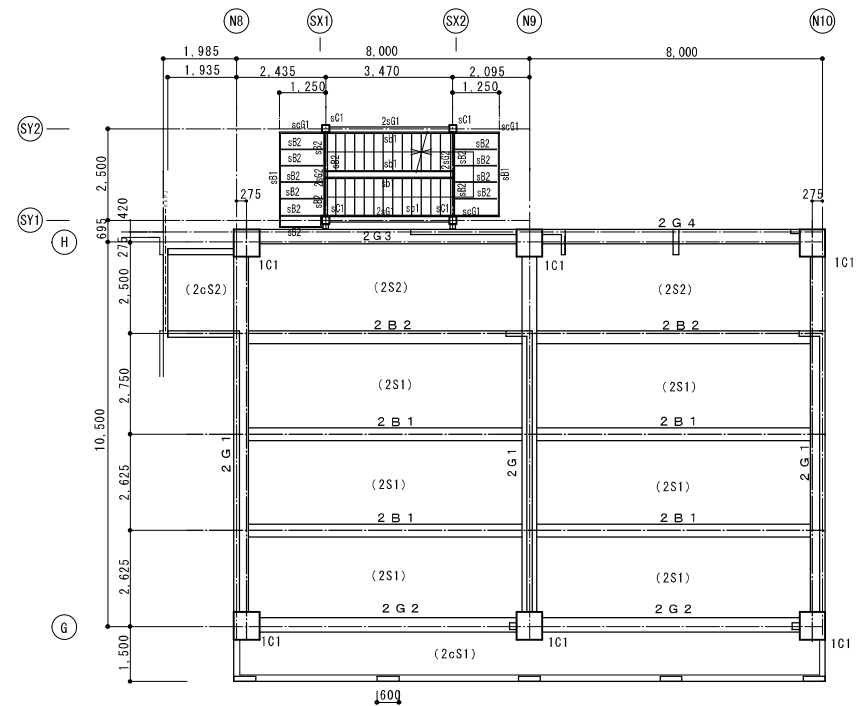
ボーリング柱状図



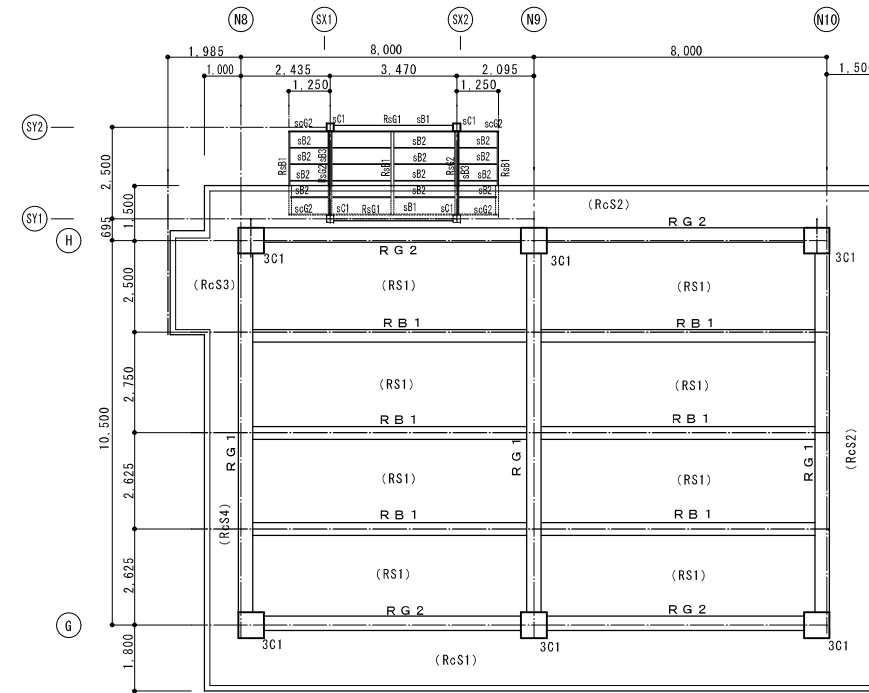
ボーリング柱状図



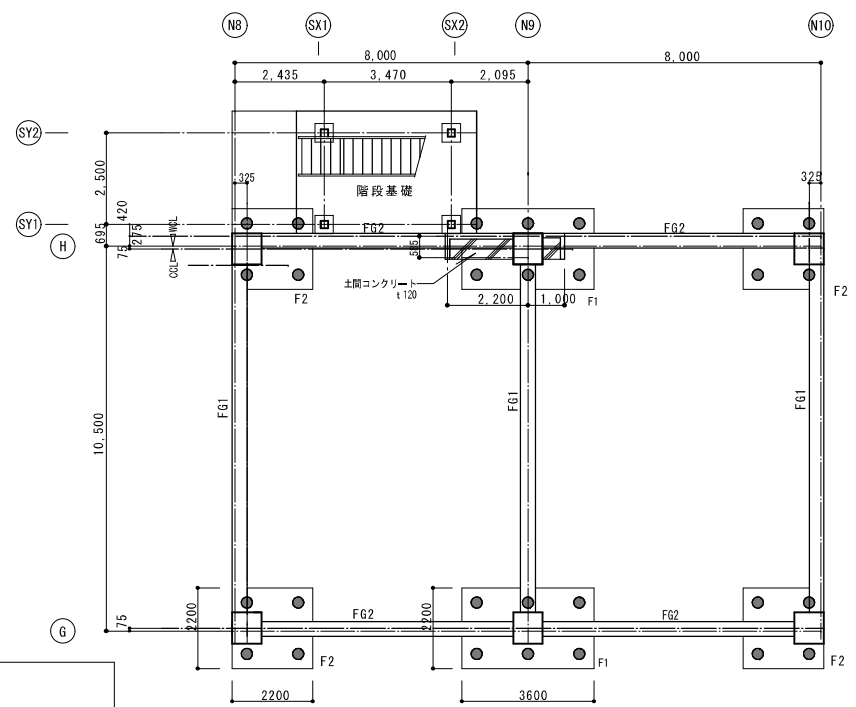




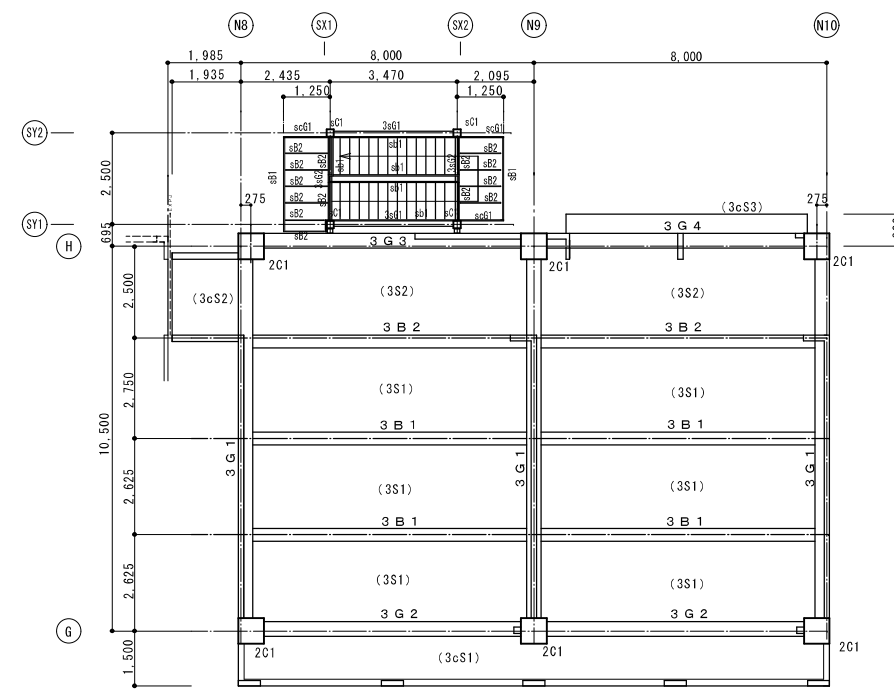
2階伏せ図 S:1/100



R階伏せ図 S:1/100



基礎伏せ図 S:1/100



3階伏せ図 S:1/100

【杭工事】  
 羽付き鋼管杭  
 φ267.4 \* t=8 L=12.0m 28本  
 設計長期支持力 538kN/本  
 杭材質STK490 羽根材質SM490A  
 ※CK-EAZET工法(無排土・低振動・低騒音工法)  
 同等品(仕様書参照)

柱断面リスト

柱記号	3C1
位置	柱頭柱脚共
配筋図	
X×Y	700 × 700
主筋	X 6-D25 Y 6-D25
HOOP	X 3-D13@100 Y D13@100
柱記号	2C1
位置	柱頭柱脚共
配筋図	
X×Y	700 × 700
主筋	X 6-D25 Y 6-D25
HOOP	X 3-D13@100 Y D13@100
柱記号	1C1
位置	柱頭柱脚共
配筋図	
X×Y	800 × 850
主筋	X 6-D25 Y 10-D25
HOOP	4-D13@100

梁断面リスト

梁記号	2G1	2G2	2G3
位置	端部中央共	中央	両端部
配筋図			
b×D	350 × 900	350 × 800	400 × 900
主筋	上筋 4-D25 下筋 4-D25	5-D25 3-D25	5-D25 3-D25
S T P	D10@200	D13@200	D13@200
腰筋	4-D10	2-D10	4-D10
梁記号	FG1	FG2	
位置	端部中央共	端部中央共	
配筋図			
b×D	400 × 1800	400 × 1800	
主筋	上筋 6-D25 下筋 6-D25	7-D25 4-D25	
S T P	D13@200	D13@200	
腰筋	10-D10	10-D10	

- ※使用材料
- コンクリート : 基礎コンクリート F<sub>c</sub> = 27N/㎠ SL = 1.5
  - 躯体コンクリート F<sub>c</sub> = 27N/㎠ SL = 1.8
  - 土間コンクリート F<sub>c</sub> = 21N/㎠ SL = 1.5
  - 捨てコンクリート F<sub>c</sub> = 18N/㎠ SL = 1.5
  - 鉄 筋 : SD295A ( D10, D13, D16 )
  - SD345 ( D19, D22, D25 )

梁断面リスト

梁記号	RG1	RG2		RB1					
位置	端部中央共	端部中央共		端部中央共					
配筋図									
b×D	350 × 800	350 × 700		350 × 600					
主筋	上筋 4-D25 下筋 4-D25	4-D25 4-D25		3-D22					
S T P	D10@200	D10@200		D10@200					
腰筋	2-D10	2-D10		2-D10					
梁記号	3G1	3G2	3G3		3G4		3B1	3B2	
位置	端部中央共	端部中央共	左端部中央	右端部	左端部中央	右端部	端部中央共	端部中央共	
配筋図									
b×D	350 × 900	350 × 800	350 × 800	350 × 800	350 × 650	350 × 700			
主筋	上筋 4-D25 下筋 4-D25	5-D25 3-D25	6-D25 4-D25	4-D25 4-D25	7-D25 5-D25	5-D25 3-D22	3-D22	3-D22	
S T P	D10@200	D13@200	3-D13@200	3-D13@200	3-D13@200	3-D13@200	D10@200	D10@200	
腰筋	4-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	
梁記号	2G4		2B1	2B2					
位置	端部中央共		端部中央共	端部中央共					
配筋図									
b×D	350 × 950		350 × 650	350 × 700					
主筋	上筋 8-D25 下筋 7-D25		3-D25	3-D22					
S T P	3-D13@185		D13@200	D10@200					
腰筋	4-D10		2-D10	2-D10					

壁断面リスト

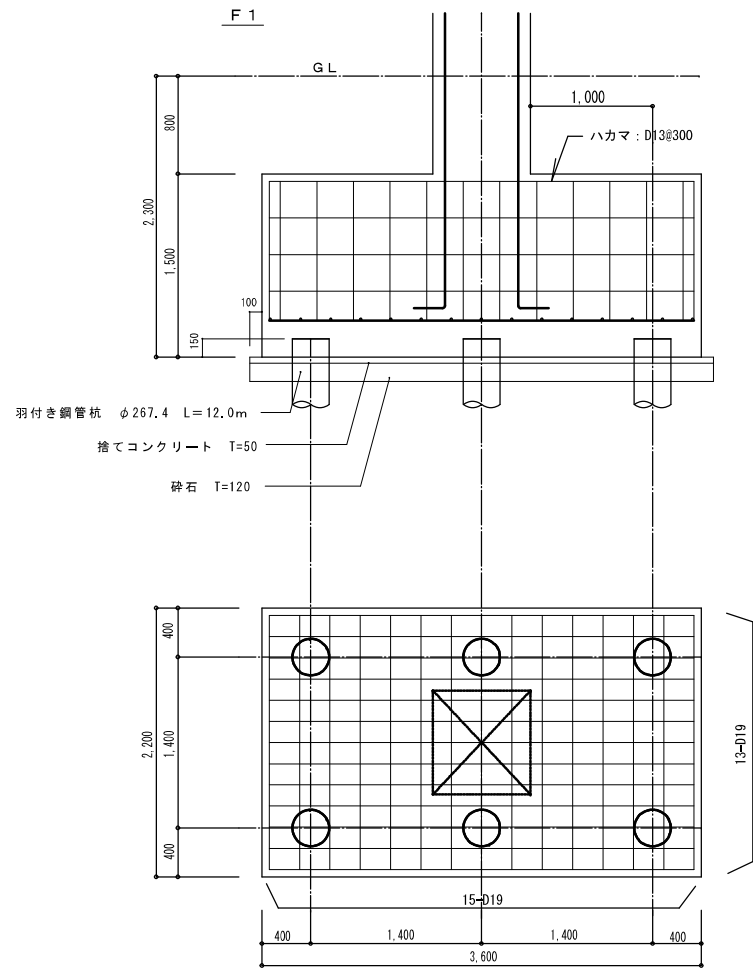
壁記号	W15	EW15a	EW15b	EW15c	雑壁
種別	一般壁	耐震壁	耐震壁	耐震壁	
配筋図					
壁厚	150	150	150	150	100・120・150
配筋	タテ D10@200ダブル ヨコ D10@200ダブル	D10@200ダブル D10@200ダブル	D10@200ダブル D10@200ダブル	D10@200ダブル D10@200ダブル	D10@200シングル D10@200シングル
巾止	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000
開口補強	縦横斜め2-D13	縦横斜め4-D16	縦横斜め3-D13	縦横斜め2-D13	縦横斜め1-D13

スラブ配筋リスト

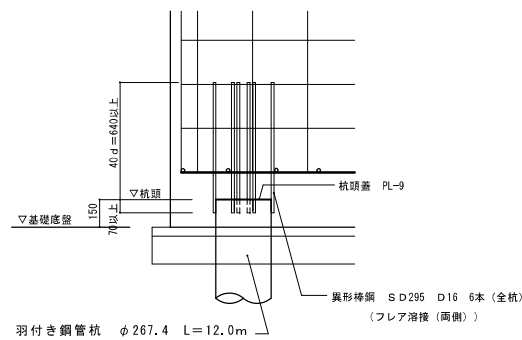
スラブ記号	短辺方向	長辺方向
2S1	D10@200	D10@200
t=150	D10@200	D10@200
2S2	D13@200	D13@200
t=150	D13@200	D13@200
3S1	D10@200	D10@200
t=150	D10@200	D10@200
RS1	D10@200	D10@200
t=150	D10@200	D10@200

柱・梁・小梁断面リスト

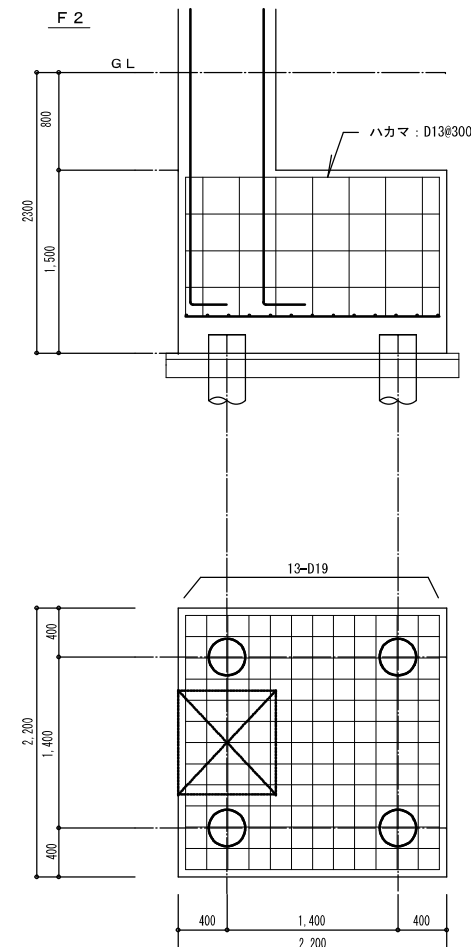
階数		
柱	SC1	□-200×200×12
梁	2sG1	H-194×150×6×9
	2sG2	H-300×150×6.5×9
	3sG1	H-194×150×6×9
	3sG2	H-300×150×6.5×9
	RsG1	PL-12×300
	RsG2	PL-12×300
小梁	scG1	PL-12×300
	scG2	PL-12×300
	sb1	PL-12×300
	ザサラ	PL-12×300
	sB1	PL-12×300
	sB2	PL-12×150
	sB3	PL-12×180
	RsB1	PL-12×200



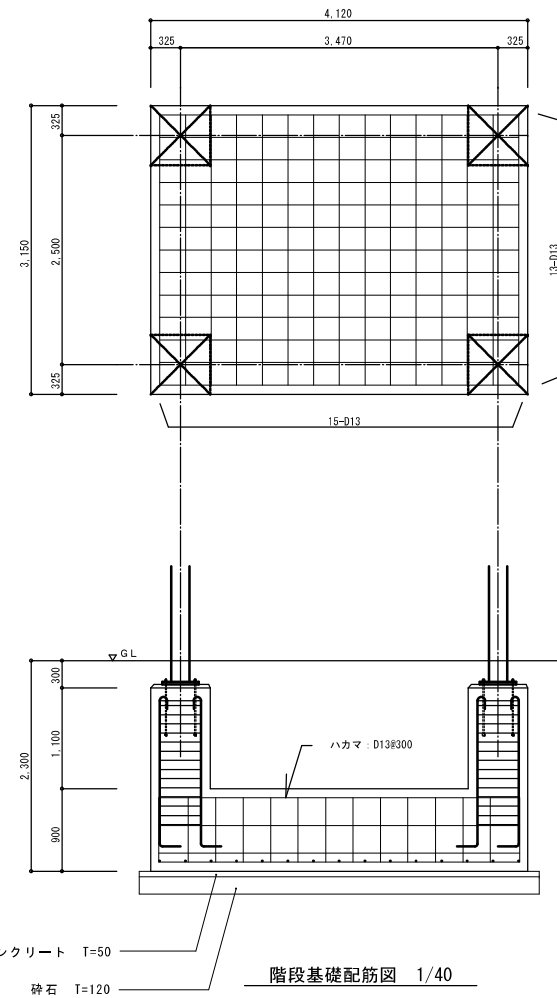
基礎配筋図 1/30



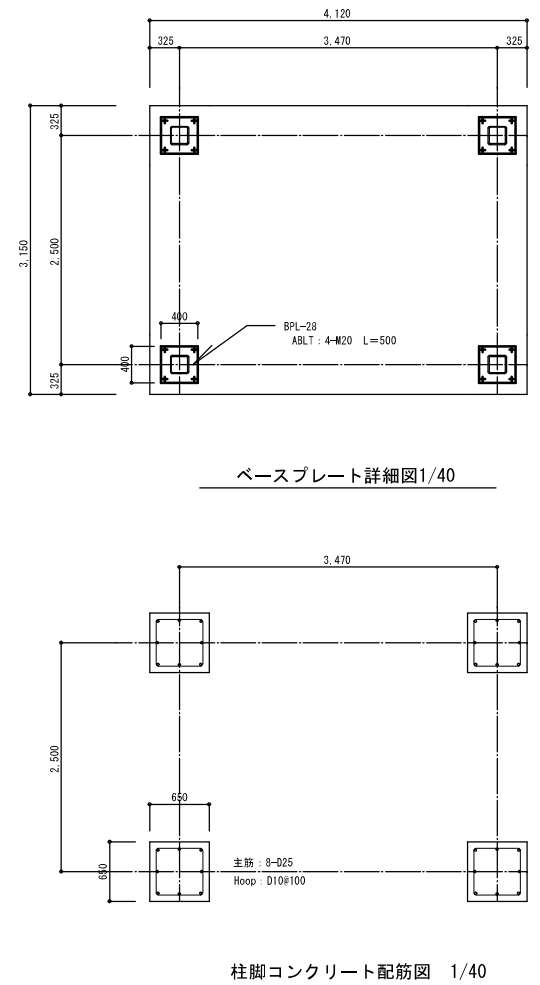
杭頭補強筋図 1/20



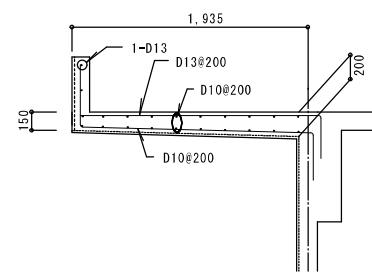
階段基礎配筋図 1/40



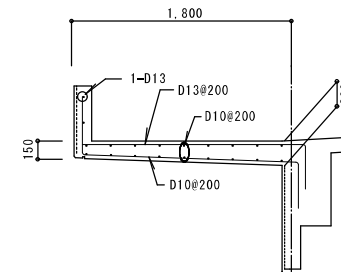
柱脚コンクリート配筋図 1/40



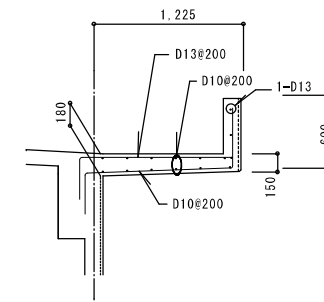
ベースプレート詳細図1/40



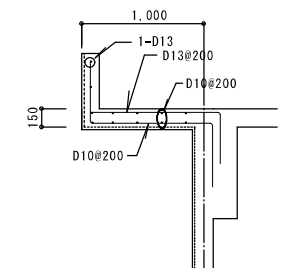
(RcS3)



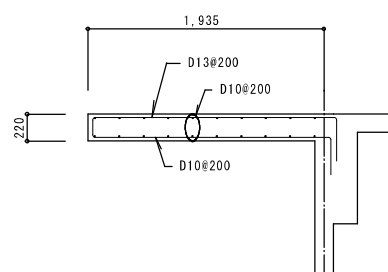
(RcS1)



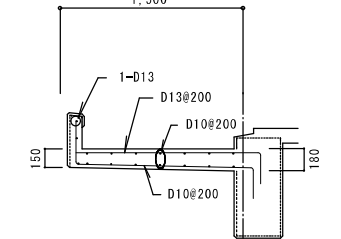
(RcS2)



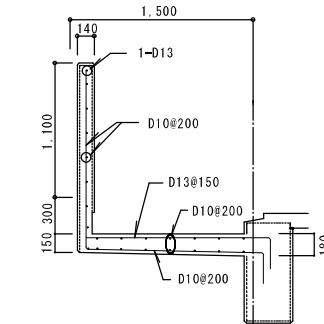
(RcS4)



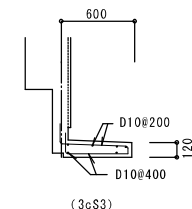
(2cS2) (3cS2)



(2cS1) (3cS1)  
(一般部)



(2cS1) (3cS1)  
(先端手すり立上部)



(3cS3)

雑配筋図 1/30

MEMO



一級建築士事務所 熊本県知事登録 第1899号  
一級建築士 大臣登録 第218467号

有限会社 ウテナ設計

熊本市北区室園町3番48号  
代表取締役 富田 隆信  
(管理建築士)  
TEL 096-345-0171

管理建築士  
DRAW.C  
DRAW.C  
DRAW.C

PROJECT

令和6年度泗水小学校増築工事

D. TITLE

基礎配筋図・雑配筋図

DATE

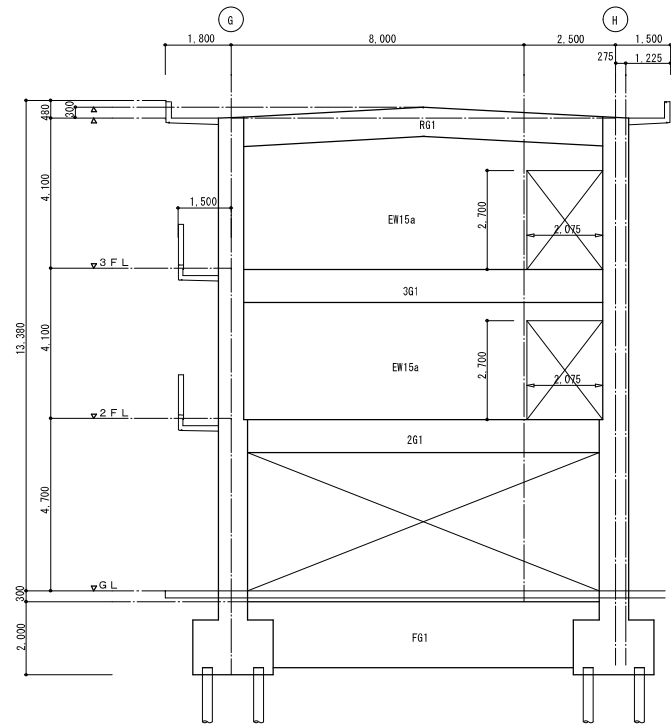
R6.3.15

NO.

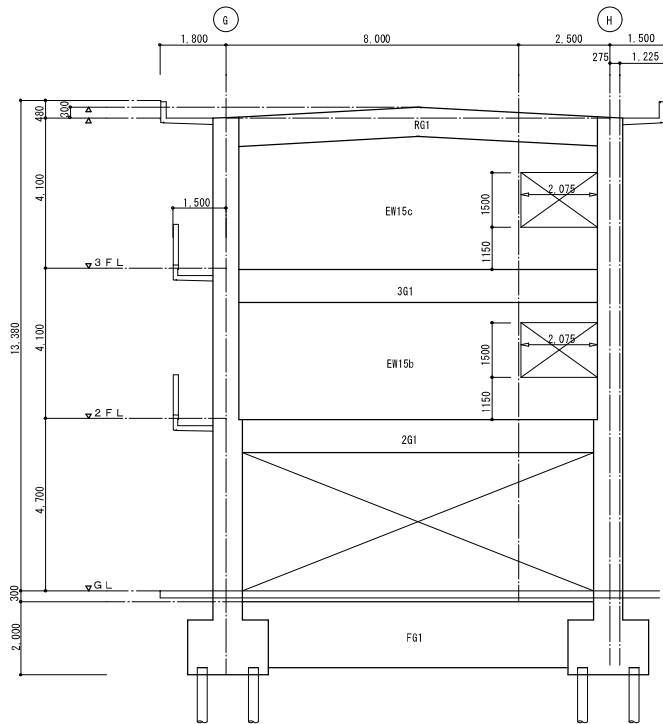
S-11

SCALE

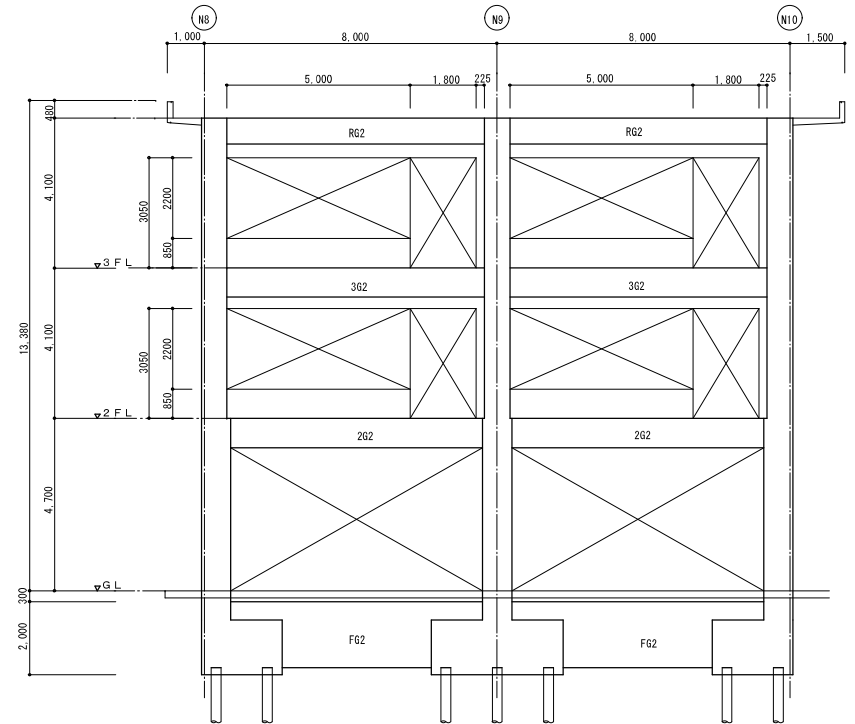
A1:1/20, 30, 40 A3:1/40, 60, 80



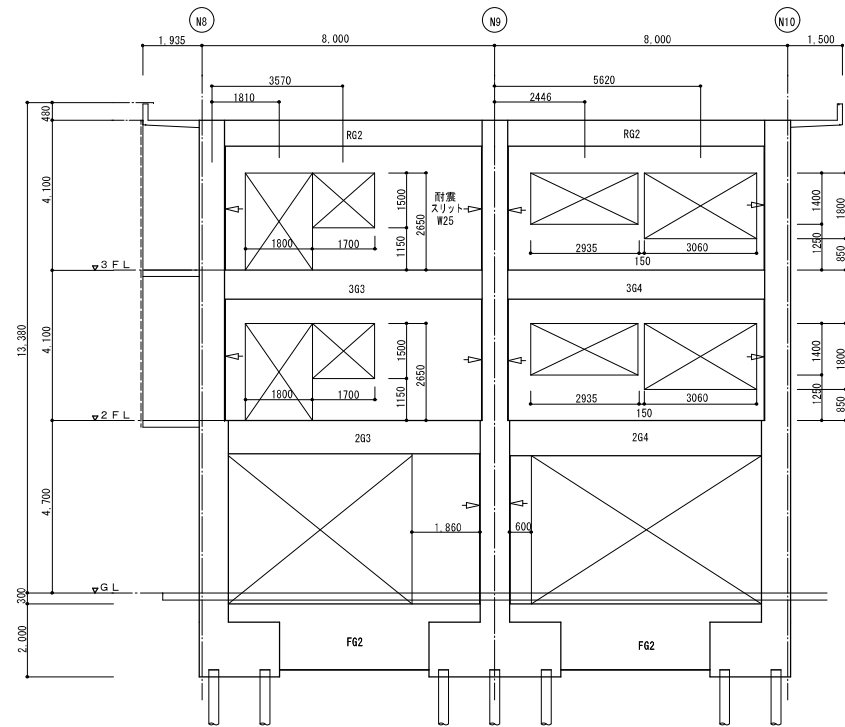
N8、N9通り軸組図 1/100



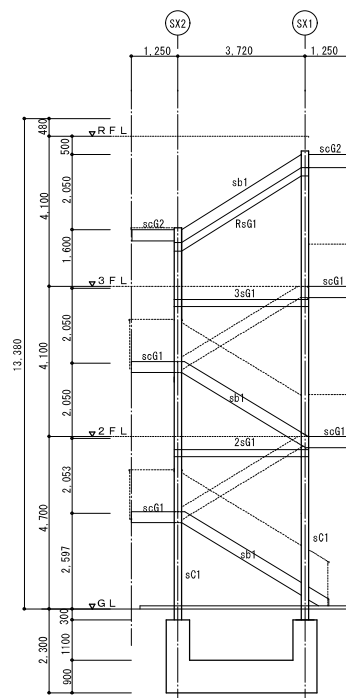
N10通り軸組図 1/100



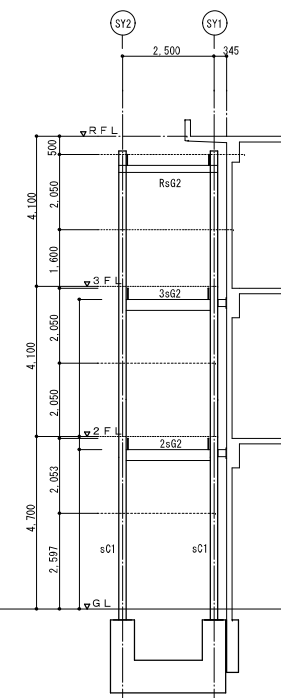
G通り軸組図 1/100



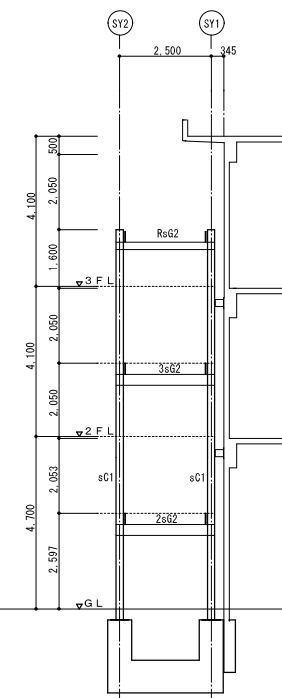
H通り軸組図 1/100



SY2通り軸組図



SX1通り軸組図



SX2通り軸組図

MEMO



一級建築士事務所 熊本県知事登録 第1899号  
一級建築士 大臣登録 第218467号

有限会社 ウテナ設計

熊本市北区室園町3番48号  
代表取締役 富田隆信 (登録建築士)  
TEL 096-345-0171

管理建築士 DRAW.C DRAW.C DRAW.C

PROJECT

令和6年度泗水小学校増築工事

D. TITLE

軸組図

DATE

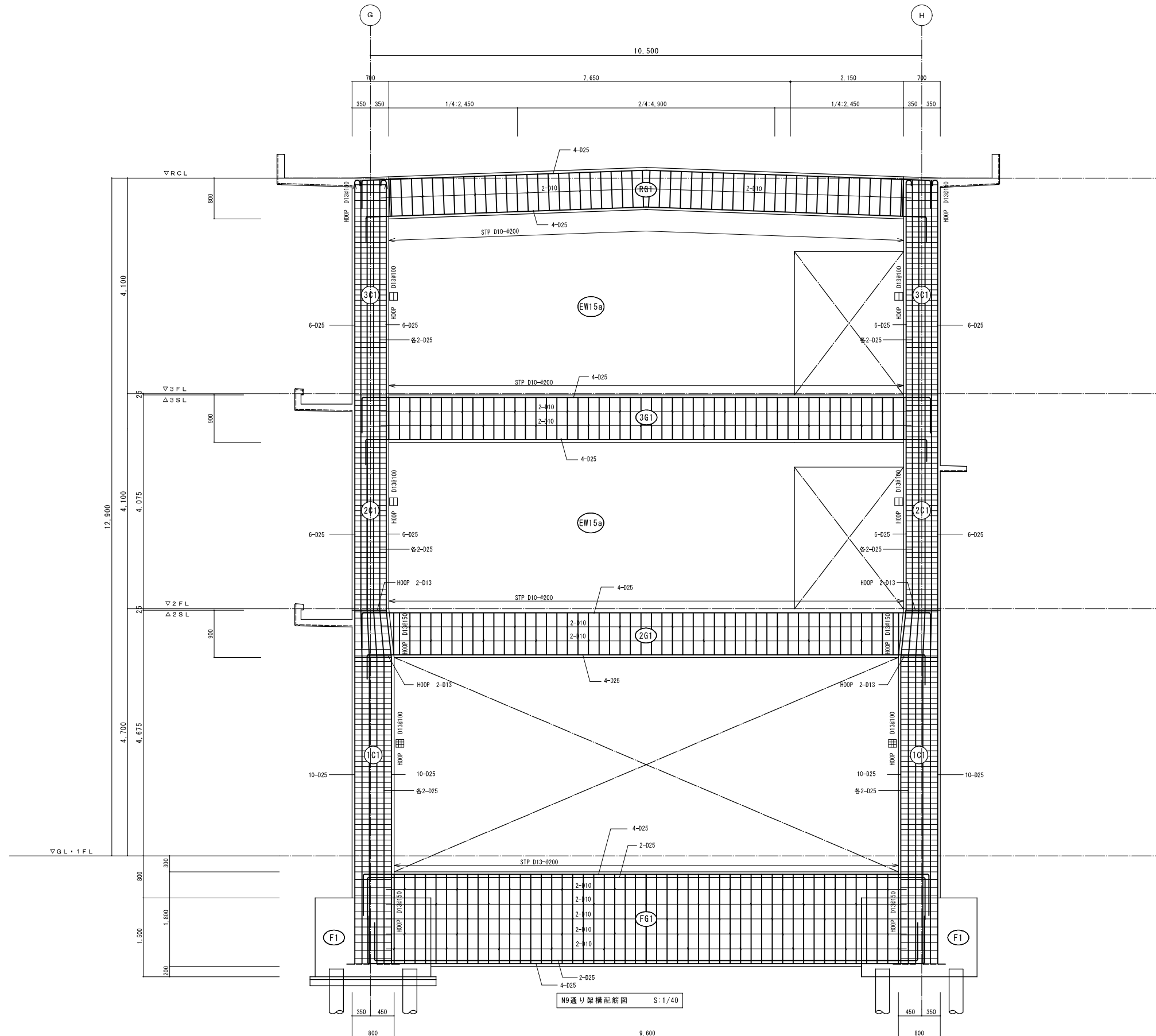
R6.3.15

NO.

SCALE

A1:1/100 A3:1/200

S-12



MEMO



ARCHITECT OFFICE UTENA  
 一級建築士事務所 熊本県知事登録 第1899号  
 一級建築士 大臣登録 第218467号  
**有限会社 ウテナ設計**

熊本市北区室園町3番48号  
 代表取締役 富田 隆 信  
 (管理建築士)  
 TEL 096-345-0171

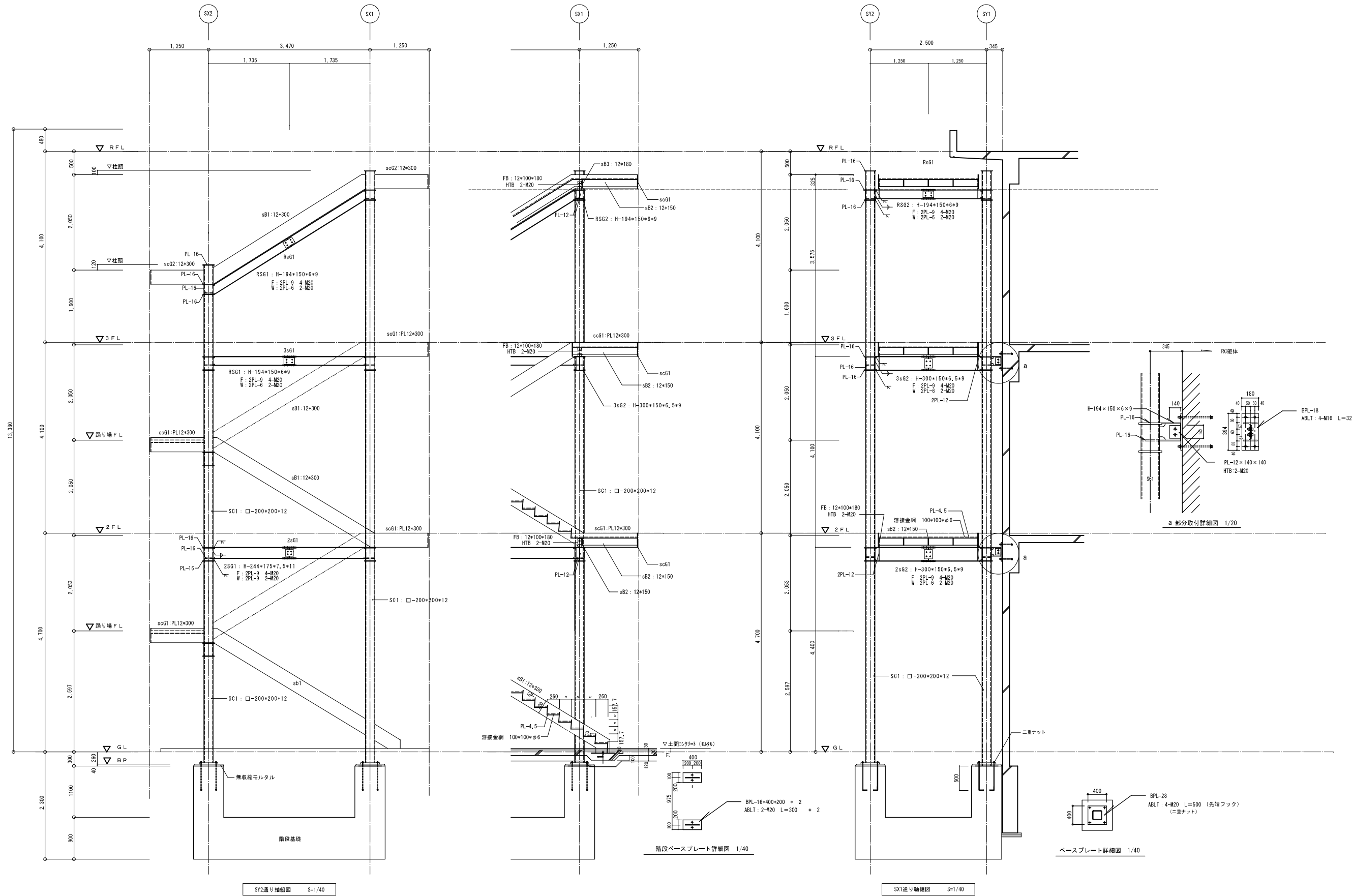
管理建築士 DRAW.C DRAW.C DRAW.C

PROJECT  
 令和6年度泗水小学校増築工事

D. TITLE  
 RC配筋詳細図

DATE R6.3.15  
 SCALE A1:1/40 A3:1/80

NO.  
 S-13



MEMO



一級建築士事務所 熊本県知事登録 第1899号  
 一級建築士 大臣登録 第218467号  
**有限会社 ウテナ設計**

熊本市北区室園町3番48号  
 代表取締役 富田隆信 (登録建築士)  
 TEL 096-345-0171

管理建築士 DRAW.C DRAW.C DRAW.C

PROJECT  
 令和6年度泗水小学校増築工事

D. TITLE  
 鉄骨ラーメン架構図

DATE R6.3.15  
 SCALE A1:1/20, A0:1/40, A3:1/40, 80

NO.  
 S-14